

富山経済同友会

教育問題委員会

課外授業講師派遣制度

活動レポート'21～'22

富山経済同友会は、平成12年3月に発表した提言「家庭教育を見なおす～子どもと共に親も学ぶ～」において、会員による具体的行動の一つとして、課外授業の講師を学校現場に派遣し、積極的に児童生徒や教師の方々と交流・連携することを提唱しています。

このことが、人生の先輩として生き方や考え方を伝えるとともに、親の仕事の一端を知る機会ともなるものと考えています。

当会の会員有志（主に企業経営者）によるボランティアの活動です。

令和3年度及び4年度の活動レポートを通じて、最新の活動状況をお知らせいたします。

富山経済同友会とは？

経済同友会は、経済3団体（経済同友会、日本経済団体連合会、日本商工会議所）の一つであり、全国各地に44の経済同友会があります。

富山経済同友会は、昭和36年に経済人としての職能的立場から日本経済の進歩と安定に寄与し、併せて会員相互の啓発、親睦を図ることを目的に設立され、現在約430名の経済人が参加しています。

各地の経済同友会と連携を図りながら、現実の企業経営に密着した知識と経験を駆使し、自由な研究討議を重ね、経済人として積極的に意見を公表するなど、地域社会の経済発展ひいては日本の経済発展に努めています。

《活動概要》

- 委員会活動（研究、提言など）
- 講演会・セミナー活動（時宜を得たテーマで講師を招き、講演会、セミナー等を開催）
- その他（会員定例会、諸団体との交流など）

富山経済同友会「課外授業講師派遣」制度のご案内

「課外授業講師派遣」制度とは ...

富山経済同友会の会員有志（主に企業経営者）を、学校の課外授業や特別授業のゲスト講師としてご紹介する制度です。

📎 どんな話が聞けるの？

当活動に賛同した当会の会員が、それぞれの得意とする分野についてお話しします。
たとえば……人生の先輩としての体験談、働くことや学ぶことの意味、職業観、人生観、
夢を持つことの大切さ、これからの社会で必要となる力 など

📎 どんな所に来てもらえるの？

主に小学校（高学年）、中学校、高等学校の課外授業や特別授業の講師としてお役に立ちたいと考えています。

※これまでの派遣実績や授業の様子などは、当会のホームページに掲載しています。
派遣依頼書の様式をダウンロードすることもできます。

 **富山経済同友会ホームページ** <https://www.doyukai.org/>

📎 留意点は？

- 当会の会員有志によるボランティアの活動です。謝礼などのお気遣いは一切ご無用に願います。
- 日程の調整が困難な場合など、ご要望にお応えできない場合もありますので、実施希望日までに余裕をもってご連絡ください。
- 複数の講師をご希望の場合、ご要望どおりの人数をお受けできない場合もございます。
また、お申し込み内容によっては、お引き受けできない場合もございますので、ご了承ください。

【お問合せ・お申し込み方法】

ご質問、お申し込みは、随時受け付けています。

（お申し込みから授業実施までの流れは、次頁をご参考にしてください。）

[連絡先] 富山経済同友会 事務局

〒 930-0856 富山市牛島新町 5-5 インテックビル 4 階

tel. 076-444-0660 / fax. 076-444-0661

e-mail : doyukai@po.hitwave.or.jp

「課外授業講師派遣」の流れ

富山経済同友会の行う「課外授業講師派遣」について、お申し込みから授業実施までの流れを紹介します。

1 申し込みから調整まで

学校 開催希望日の2～3カ月前までにお申し込みください。

事務局 ●学校の希望を踏まえ、講師登録会員の中から講師の調整を行います。
●講師が決まり次第、学校へ連絡します。

✎ 必要事項

○開催日時、会場、対象学年、人数、講演テーマなど、その他、ご要望があればお聞かせください。

2 事前準備

学校 直接講師へ連絡し、授業内容、当日の流れ、資料や機材（パソコン、プロジェクター、スクリーンなど）の有無、集合時間など、事前に必要な打ち合わせを行ってください。

講師 学校からの連絡を受け、当日の準備（資料作成など）を行います。

✎ お願い

○スケジュールその他、当初事務局に依頼された内容に変更が生じた場合は、速やかに講師および事務局にご連絡ください。

3 直前打ち合わせ(当日)

授業の前には、集合場所（校長室など）で、講師と進行の最終確認をお願いします。
校長先生など（学校側の責任者）から、学校や児童生徒の様子などもお伝えください。

✎ 授業の記録

○事務局職員が訪問し、記録のための写真撮影、録音、録画等をさせていただきます。授業の様子は、会報や活動レポートに掲載しますので、ご了承ください。

4 授業(当日)

各講師がそれぞれのスタイルで授業を実施します。

- 授業開始時に担当の先生から講師（会社名、役職など）をご紹介します。
- 終了時、児童生徒の代表から感想やお礼の言葉があればお伝えください。

5 授業終了後のお願い

授業終了後には、校長室などの控室にて、学校と講師双方で感想を述べ合う、意見交換の時間を設けてください。

✎ 感想文の提出

○授業終了後、児童生徒が感想文等を作成される場合は、講師（および事務局）にもご送付ください。活動を続ける講師の励みになります。



富山経済同友会 課外授業講師派遣実績一覧【令和3年度～4年度】

（*敬称略。講師の役職等は派遣当時のもの）

令和3年度

No.	開催日	学 校・対 象	講 師	内 容
1	R3. 6. 3(休)	砺波市立出町中学校 3学年(213名)	山野 昌道 (株)チューリップテレビ 取締役社長)	「未来を生きる」
2	R3. 6.17(休)	砺波市立出町中学校 2学年(228名)	稲垣 晴彦 (北陸コカ・コーラボトリング(株) 取締役会長)	「仕事を通して学んだこと」
3	R3. 6.30(休)	富山市立北部中学校 全学年(474名)	遊道 義則 (株)ユニオンランチ 取締役社長)	「働くということ、生きるということ～ 知っている・できる・やる～」
4	R3. 7. 7(休)	高岡市立牧野中学校 2学年(86名)	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長)	「よりよく生きる」
5	R3. 7. 8(休)	富山市立城山中学校 2学年(73名)	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長)	「よりよく生きる」
			久郷 慎治 (株)久郷一樹園 代表取締役)	「働くことについて」
			大橋 聡司 (大高建設(株) 取締役社長)	「働くこと 学ぶこと 生きること」
			高林 幸裕 (北電産業(株) 取締役社長)	「働くということ」
			伊東 潤一郎 (アイティオ(株) 取締役社長)	「働く事と幸せに生きる事」
			高瀬 幸忠 (株)スカイインテック 取締役社長)	「働くことの意義」
			島田 好美 (株)島田商店 代表取締役)	「社会に学ぶ14歳の挑戦」
			福崎 秀樹 (株)フクール 代表取締役)	「AI時代を生き抜く!」
6	R3. 7.15(休)	富山県立富山商業高等学校 3学年(275名)	尾城 敬郎 (三菱商事(株) 北陸支店長)	「社会に踏み出す為に」
7	R3. 7.16(休)	片山学園高等学校 1学年(8名)	伊東 潤一郎 (アイティオ(株) 取締役社長)	「働く事と幸せに生きる事」
8	R3. 9.15(休)	富山県立雄峰高等学校 3学年(112名)	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長)	「よりよく生きる」
9	R3. 9.25(土)	富山県立魚津高等学校 1学年(160名)	大橋 聡司 (大高建設(株) 取締役社長)	「働くこと 学ぶこと 生きること」
10	R3. 9.29(休)	入善町立入善中学校 2学年(102名)	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長)	「働くこと」
11	R3.10. 7(休)	富山第一高等学校 2学年(387名)	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長)	「よりよく生きる」
12	R3.10.13(休)	富山県立小杉高等学校 1学年(160名)	山野 昌道 (株)チューリップテレビ 取締役社長)	「企業が求める人物像、3つのポイント」

No.	開催日	学校・対象	講師	内容
13	R3.10.27(水)	高岡市立志貴野中学校 2学年(148名)	在田 吉宏 (㈱アリタ 取締役社長)	「将来のために 今やるべきこと」
			神崎 直志 (三井物産㈱ 理事北陸支社長)	「あなたはなぜ働くのですか?なぜ勉強するのですか?」
			張田 真 (ハリタ金属㈱ 代表取締役)	「社会人と考える自分の「生き方」」
			山野 昌道 (㈱チューリップテレビ 取締役社長)	「人生を幸せにする3つのコツ」
14	R3.10.28(木)	高岡市立高岡西部中学校 2学年(113名)	村尾 于尹 (㈱村尾地研 取締役会長)	「君たちに期待する」
15	R3.11. 9(水)	射水市立中太閤山小学校 6学年(59名)	遊道 義則 (㈱ユニオンランチ 取締役社長)	「夢を持つ、追いかけて、そして叶えよう～夢と目標と目的と・・・～」
16	R3.12. 3(金)	高岡市立南星中学校 2学年(172名)	荒井 洋平 (㈱宝来社 代表取締役)	「問題解決の方法としてのデザイン」
			碓井 一平 (Labore ㈱ 代表取締役)	「自由に生きるために必要なお金」
			尾山 謙二郎 (マンパワーセキュリティ㈱ 代表取締役)	「生きる力」
			京田 憲明 (㈱富山市民プラザ 代表取締役)	「公務員として働くということ」
			土屋 誠 (日本海ガス㈱ 取締役社長)	「あなたは将来、どのような仕事に 就きたいですか?」
			羽根 敬喜 (富美菊酒造㈱ 代表取締役)	「働くこと ～私の社会人としての歩みについて～」
			開 章夫 (昭和建設㈱ 代表取締役)	「まちをつくる建設業と災害対策」
			若林 健嗣 (日本海電業㈱ 代表取締役)	「通信と防災、デジタルツインの社会」
17	R3.12.10(金)	富山市立山室中学校 1学年(187名)	遊道 義則 (㈱ユニオンランチ 取締役社長)	「夢を持つ、追いかけて、そして叶えよう～夢と目標と目的と・・・～」
18	R3.12.14(水)	富山県立富山高等支援学校 全学年(52名)	上田 信和 (砺波工業㈱ 取締役社長)	「夢に向かって付けたい力」
19	R3.12.16(木)	富山県立雄山高等学校 1学年(150名)	川合 紀子 (有)ステップアップ 代表取締役)	「働くこと、学ぶこと」
20	R4. 2. 2(水)	富山大学人間発達科学部 附属小学校 5, 6学年(139名)	牧田 和樹 (㈱牧田組 取締役社長)	「未来をつくるために」
21	R4. 2. 9(水)	射水市立大門中学校 1学年(253名)	遊道 義則 (㈱ユニオンランチ 取締役社長)	「夢を持つ、追いかけて、そして叶えよう～夢と目標と目的と・・・～」
22	R4. 2.10(木)	富山市立城山中学校 1学年(94名)	牧田 和樹 (㈱牧田組 取締役社長)	「なぜ働くの?」
23	R4. 2.18(金)	富山市立奥田中学校 1学年(213名)	市森 友明 (㈱新日本コンサルタント 取締役社長)	「学習の目的を知って 努力を楽しくしよう」
			島田 好美 (㈱島田商店 代表取締役)	「13歳の学び『働く人に学ぶ』」

No.	開催日	学校・対象	講師	内容
			高林 幸裕 (北電産業(株) 取締役社長)	「働くということ」
			土屋 誠 (日本海ガス(株) 取締役社長)	「あなたは将来、どのような仕事に就きたいですか？」
			廣田 大輔 (十全化学(株) 取締役社長)	「奥田中学校1年生のみなさんへ」
			山崎 義明 (株山崎製作所 取締役社長)	「働くことの意味」
24	R4. 2.25(金)	高岡市立高陵中学校 2学年(102名)	在田 吉宏 (株アリタ 取締役社長)	「将来に向けて、今やるべきこと～ 社会との関わり方を考える～」
			張田 真 (ハリタ金属(株) 代表取締役)	「社会人と考える自分の「生き方」」
			開 章夫 (昭和建設(株) 代表取締役)	「働くということ」
25	R4. 3. 4(金)	富山市立速星中学校 1学年(331名)	遊道 義則 (株ユニオンランチ 取締役社長)	「夢を持とう、追いかけて、そしてかなえよう～夢と目標と目的と～」

(25校 49名)

令和4年度

No.	開催日	学校・対象	講師	内容
1	R4. 6. 7(火)	高岡第一高等学校 1学年(186名)	山野 昌道 (株チューリップテレビ 取締役社長)	「自分の夢の見つけ方～高校生活で意識したいこと～」
2	R4. 6.15(水)	富山市立奥田小学校 6学年(74名)	島田 好美 (株島田商店 代表取締役)	「仕事の話～いろんな仕事に出会ってみれば～」
3	R4. 6.15(水)	高岡市立牧野中学校 2学年(86名)	牧田 和樹 (株牧田組 取締役社長)	「よりよく生きる」
4	R4. 6.20(月)	高岡市立戸出中学校 2学年(106名)	牧田 和樹 (株牧田組 取締役社長)	「働くとは」
5	R4. 6.24(金)	富山市立興南中学校 2学年(89名)	荒井 洋平 (株宝来社 代表取締役)	「働くことの意義と心構え」
			尾山 謙二郎 (マンパワーセキュリティ(株) 代表取締役)	「働くことの意義と心構え」
			辻井 益雄 (株富花 取締役会長)	「働くことの意義と心構え」
6	R4. 6.24(金)	舟橋村立舟橋中学校 2学年(40名)	伊東 潤一郎 (アイティオ(株) 取締役社長)	「働くとは」
7	R4. 7.13(水)	富山商業高等学校 3学年(273名)	石橋 隆二 (株石橋 代表取締役)	「社会貢献としての仕事および働くうえで必要な資質・能力」
			市森 友明 (株新日本コンサルタント 取締役社長)	「仕事は、社会貢献とお金の両立。そして、そのための学習」
			碓井 一平 (Labore(株) 代表取締役)	「富商の伝統は社会で役立つのか。ほんとのところ」

No.	開催日	学 校・対 象	講 師	内 容
			福崎 秀樹 (㈱フクール 代表取締役)	「VUCAを生き抜く」
			牧 真奈美 (㈱クルサー 代表取締役)	「介護職の役割、社会人として必要なコミュニケーション能力」
			森 弘吉 (㈱エムダイヤ 代表取締役)	「これから社会人になる皆さんへお伝えしたい事」
			遊道 義則 (㈱ユニオンランチ 取締役社長)	「生きるということ 働くということ」
8	R4. 9. 2(金)	高岡市立高陵中学校 2学年(85名)	稲田 祐治 (加越能バス㈱ 相談役)	「働くことの意義、社会人としての心構え」
			張田 真 (ハリタ金属㈱ 代表取締役)	「働くことの意義、社会人としての心構え」
			開 章夫 (昭和建設㈱ 代表取締役)	「働くことの意義、社会人としての心構え」
9	R4. 9. 7(水)	富山市立山室中学校 2学年(188名)	牧田 和樹 (㈱牧田組 取締役社長)	「よりよく生きる」
10	R4. 9.14(水)	富山県立雄峰高等学校 3年次(110名)	牧田 和樹 (㈱牧田組 取締役社長)	「よりよく生きる」
11	R4. 9.24(土)	富山県立魚津高等学校 1学年(161名)	遊道 義則 (㈱ユニオンランチ 取締役社長)	「生きるということ～人生って何なんだろう～」
12	R4.10.12(水)	富山県立小杉高等学校 1学年(159名)	浦山 哲郎 (学浦山学園 理事長)	「Crossroads」
13	R4.11. 8(火)	高岡市立志貴野中学校 2学年(173名)	在田 吉宏 (㈱アリタ 取締役社長)	「将来に向けて今やるべきこと～どんな未来を創りたい?～」
			稲田 祐治 (加越能バス㈱ 相談役)	「『14歳の挑戦』をどのように活かすか」
			尾山 謙二郎 (マンパワーセキュリティ㈱ 代表取締役)	「生きる力」
			土屋 誠 (日本海ガス㈱ 取締役社長)	「あなたは将来どのような仕事に就きたいですか」
			張田 真 (ハリタ金属㈱ 代表取締役)	「生き方を考える」
14	R4.12. 8(木)	富山市立蜷川小学校 6学年(131名)	牧田 和樹 (㈱牧田組 取締役社長)	「なりたい自分になろう」
15	R4.12.13(火)	黒部市立生地小学校 5・6学年(48名)	牧田 和樹 (㈱牧田組 取締役社長)	「よりよく生きること」
16	R4.12.16(金)	富山県立富山高等支援学校 全学年(41名)	山野 昌道 (㈱チューリップテレビ 取締役社長)	「人生を幸せにする3つのコツ」
17	R5. 3. 3(金)	富山県立高岡高等学校 1学年(280名)	福崎 秀樹 (㈱フクール 代表取締役)	「大転換期を生き抜く力を考える」

(17校31名)

教育講演等

令和3年度

No.	開催日	団体等	講師	内容
1	R3. 6.30(水)	富山市中堅教諭等資質向上研修(第1回)	稲葉 伸一 (株三四五建築研究所 代表取締役)	「組織のリーダーとは」「若手の育成」
			尾城 敬郎 (三菱商事(株) 北陸支店長)	
			尾山 謙二郎 (マンパワーセキュリティ(株) 代表取締役)	
			土屋 誠 (日本海ガス(株) 取締役社長)	
2	R3. 7.29(水)	小・中・県立学校3年次校長研修会	牧田 和樹 (株牧田組 取締役社長)	「よりよく生きる」
3	R3.11.10(水)	富山県中学校長会 令和3年度研究大会	森藤 正浩 (正栄産業(株) 取締役社長)	「リーダーとしての、アントレプレナーシップ」
4	R3.11.11(水)	高岡市小・中学校教務主任会研修会	遊道 義則 (株ユニオンランチ 取締役社長)	「働き方改革について～私の思うところ～」
5	R3.11.24(水)	富山市中堅教諭等資質向上研修(第2回)	高野 二郎 (タカノ建設(株) 取締役社長)	「組織のリーダーとは」「若手の育成」
			東澤 善樹 (とうざわ印刷工芸(株) 取締役社長)	
			森 弘吉 (株エムダイヤ 代表取締役)	
			柳川 三千代 (株モーヴ 代表取締役)	
6	R3.11.24(水)	富山県中堅教諭等資質向上研修	高瀬 幸忠 (株スカイインテック 取締役社長)	「ミドルリーダーとしての自覚(役割)」
7	R4. 1.18(水)	令和3年度高等学校長協会研究発表大会	高瀬 幸忠 (株スカイインテック 取締役社長)	「改革の両輪『働き方改革と学び方改革』」

令和4年度

No.	開催日	団体等	講師	内容
1	R4. 5.18(木)	富山県キャリア教育推進委員会	伊東 潤一郎 (アイティオ(株) 取締役社長)	「インターンシップ受入れ企業が学校教育に求めるもの」
2	R4. 6.30(木)	富山市中堅教諭等資質向上研修(第1回)	長 高英 (北陸電力(株) 常務執行役員営業本部長)	「組織のリーダーとは」「若手の育成」
			寺島 雅峰 (株)寺島コンサルタント 代表取締役	
			丹羽 誠 (有)ライフプラン研究所 代表取締役	
			牧 真奈美 (株)クルサー 代表取締役	
3	R4. 7.28(木)	小・中・県立学校3年次校長研修会	高瀬 幸忠 (株)スカイインテック 取締役社長	「経営者の危機管理」
4	R4. 8. 1(月)	富山市中堅教諭等資質向上研修(第2回)	高松 重信 (みずほ証券(株) 富山支店長)	「組織のリーダーとは」「若手の育成」
			田村 元宏 (株)タムラ設計・代表取締役	
			廣田 大輔 (十全化学(株) 取締役社長)	
			山本 克也 (株)インテック 執行役員	
5	R4. 8.23(木)	県立学校校長研修会	高林 幸裕 (北電産業(株) 取締役社長)	「私の仕事は自分の仕事をなくすこと～期待以上の話を聞かせてもらおう喜び～」
6	R4.11.22(木)	富山県中堅教諭等資質向上研修	大橋 聡司 (大高建設(株) 取締役社長)	「ミドルリーダーとしての自覚(役割)」

参考 課外授業講師／実施件数及び講師派遣人数

年度	小学校	中学校	高校等	計	講師
H13		3	3	6	11
14		1	4	5	7
15		4	6	10	14
16		4	8	12	15
17	3	9	8	20	24
18	1	8	5	14	20
19	1	9	4	14	16
20		12	4	16	16
21	2	9	3	14	14
22	2	11	3	16	17
23	3	7	4	14	14

年度	小学校	中学校	高校等	計	講師
H24	4	11	7	22	25
25	4	8	7	19	26
26	1	6	2	9	10
27	2	12	3	17	24
28	2	9	3	14	14
29	1	14	1	16	21
30	1	11	2	14	31
R 1		9	5	14	18
R 2	1	9	5	15	19
R 3	2	15	8	25	49
R 4	3	7	7	17	31
計	33	188	102	323	436

課外授業講師派遣 活動レポート

令和3年度

第1回 砺波市立出町中学校

令和3年6月3日(木)、山野昌道氏(株チューリップテレビ取締役社長)が砺波市立出町中学校において、3学年213名を前に「未来を生きる」をテーマに課外授業を行った。

山野社長ははじめに「なぜ働かなければならないのか」と生徒に問いかけ、「社会人になる、働くとは、みんなが社会で何らかの役割をもって参加し、社会をみんなで作ることである。なぜ働くのか、自分なりの考え方を持とう」と語りかけた。

次に、大学時代はアナウンサー志望だったことなど自身の経験を基に「自分のやりたいこと、夢を持つべき。ただ、夢や考え方は変化していく。夢を見つけていくためには日々考え、行動し続けるなど1日1日を一生懸命生きることが大切」と説いた。

AI(人工知能)の利用やグローバル化が一層進むこれからの時代は、プロフェッショナルであること、共助

の精神、人間でなければできないこと(真面目さ、外向性、協調性などの性格スキル)がさらに求められるとし「求められる資質は①チームプレーのできる人、②未来を切り開ける人、③正しい倫理観を持った人である」と訴えた。

最後に、これからの人生を幸せにする3つのコツとして①迷ったら“やる”、②人のせいにならない、③ポジティブ・シンキングを挙げ「どちらが正しかったかは一生わからない。選んだ方を正解とし、未来のために今日1日を積み重ねていこう」とエールを送り、講演を締めくくった。



「未来を生きる」ということは“未来のために今を生きる”ということ」と山野社長

第2回 砺波市立出町中学校

令和3年6月17日(木)、稲垣晴彦氏(北陸コカ・コーラボトリング(株)取締役会長)が砺波市立出町中学校において、2学年228名を前に「仕事を通して学んだこと」をテーマに課外授業を行った。

稲垣会長ははじめに「みなさんは幸せですか」、「ありがとう」の反対語は何ですか」と問いかけた。“当たり前”と答えた生徒を称賛し、かつて訪れたアメリカでのエピソードとして、降水量が少なくスプリンクラーで水が撒ける範囲で耕作するため円形となった畑を見たことを披露した。「それまでは水田の隅々まで水が行き渡っていることが当たり前と思っていた。この社会は様々な要素から成り立っていると気付いた。人は思ってもみなかったものに気付くと、嬉しく幸せな気分になる」とした上で「勉強は何のためにやるのか、なぜ勉強しなければならないのか。それは、自分が幸せになるためである」と訴えた。

次に、幸せな人生を送る3つの要素として①自分の人

生にとって“美しい”ものを見つけること、②“仕事をしている人生”と“していない人生”のバランスをとること、③自分より大切なものがあると感じられる“豊かさ”を持つことを挙げ「自分にとっての美の発見を勉強の目的とすること、これからの様々な出会いの中で自分より大切なものがあると思えるようになることが重要」と語りかけた。

最後に「今後直面する物事すべてが上手くいくとは限らない。そこで“矛盾を大切にすること”を意識してほしい。“正しいのはAかBか”だけではなく“AとBは、これを掛け合わせてC(という価値)を見つけるためのヒント”と捉えてほしい」とエールを送り、講演を締めくくった。



「若い人が持つ無限の可能性を活かして、社会へ大きな価値を提供してほしい」と稲垣会長

第3回 富山市立北部中学校

令和3年6月30日(水)、遊道義則氏(株)ユニオンランチ取締役社長)が富山市立北部中学校において、全学年474名を前に「働くということ、生きるということ～知っている・できる・やる～」をテーマに課外授業を行った。

遊道社長ははじめに、言葉の不思議さと大切に触れ、人間は自分の発する言葉によって支配され統御されていることから、「良い言葉、前向きな言葉を使うことが大事である」としたうえで、「言動には、意識に関わらず必ず肯定的な意図があり、常にそのとき可能な最善の選択をしている。起きてしまった出来事や過ぎてしまった時間は絶対に元には戻らないが、そのことに前向きな『意味付け』をすることが重要である」と強調した。

続けて、人生とは常に何かを選択しながら、自己実現を図り幸福を追求し続けるものであり、「今の自分を卑下したり現状に満足したりせず、自分の可能性を信じて、積極的に変化し成長するために、いろいろな冒険、挑戦

をしてほしい」「自分の人生を楽しくできるかどうかは自分次第」と説いた。

そして、「『知っている』ということと、『できる』ということは全然違う」としたうえで、「大切なのは『やる』ということ。

経験から得るものは非常に大きい。やらない言い訳ばかりして先送りするのではなく、必要なことは、すぐに、何でも、出来るまでやってほしい」と訴えた。

最後に、「働く目的はお金だけではない。自分の実力を発揮し、世の中に貢献することであり、人の役に立たない仕事はない。どんな職業に就いても、必ず人の役に立っているんだと誇りを持って、自分の人生を一步步歩いてほしい」と激励し、授業を締めくくった。



「今の自分に満足するな！」と遊道社長

第4回 高岡市立牧野中学校

令和3年7月7日(水)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長)が高岡市立牧野中学校において、2学年86名を前に10月実施予定の「社会に学ぶ14歳の挑戦」に向けた講演会として「よりよく生きる」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長はまず、今から働き始める年代(概ね20歳あたり)までの数年間は、働き始めるまでの準備期間であるとし「準備として求められる、知識や体力、経験等を、学校での勉強や部活動などを通じて積み重ねてほしい」と語りかけた。

次に、働くことと社会の仕組みについて「社員は労働力を提供し商品やサービスを作り出す。お店(会社)は社員により作られた商品・サービスをお客へ提供する。一方、お客はお店(会社)へ代金を支払い、お店はこの中から社員へ給料を支払う。この一連の流れが社会の構造である」とし「流れの出発点は“労働力”であること

が重要である」と訴えた。続けて「働くことを考える際、①労働力の提供により社会へ貢献すること、②提供する労働力はお客さんの役に立たなければ意味がないこと、を意識してほしい」と説いた。

最後に、今は将来従事する職業などわからないが、どんな仕事に就いても大丈夫とするために学校での勉強があるとし「職業選択の幅や役に立てるフィールドを広げるためにも、学校でしっかりと学ぶことが大切。10月予定の「社会に学ぶ14歳の挑戦」を含めて、勉強や部活などいろんな経験を積み、立派に働ける大人になれるよう期待している」とエールを送り、講義を締めくくった。



「勉強や部活など学校で今やっていることに無駄はない」と牧田社長

第5回 富山市立城山中学校

令和3年7月8日(木)、富山市立城山中学校において2学年73名を対象に課外授業を行った。「社会に学ぶ14歳の挑戦」の代替としての実施であり、当会より講師8名を派遣し生徒はグループに分かれて講師2名分の講演を聴講した。

<牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長)>

牧田社長ははじめに、一般的には概ね20~22歳頃から働き始め、80代まで生きるとし「働く期間が人生の大半を占めることになる。中学生の今の時期に“働くとは”を真剣に考えることが大事である」と説いた。

次に「社員は働いて商品やサービスを作り出し、お店(会社)はその商品・サービスをお客へ提供する。一方、お客はお店へ代金を支払い、お店はこの中から社員へ給料を支払う。この一連の流れが商売の仕組みである」とし「一連の流れでは、商品・サービスと代金、働くこと

と給料とが釣り合っていること、“働くこと”が出発点であることが重要」と強調した。続けて「社会を動かしているのは“働くこと”。経済活動は、働いて価値を提供するところから生まれる。価値とは人の役に立つこと、人の役に立つ価値を提供する働きをしなければいけない」と訴えた。

最後に、今やっている学校での勉強などは働くため、選択肢を広げるための準備であるとし「準備とは学校でやるべきことを日々、一生懸命やること。真剣に取り組めば、就ける職業の選択肢が広がることを意識してほしい」とアドバイスを送り、講義を締めくくった。



<大橋聡司氏（大高建設㈱取締役社長）>

大橋社長はまず「よろしくお願ひします」「ありがとうございました」などの挨拶時に、頭を下げた後に改めて心の中で言うことを心掛けていることを披露し「コミュニケーション能力はとても重要。その基本となる挨拶はより大事」と訴えた。

次に、働く理由は人それぞれであり全て正解であること、異なる考え方を知る・理解することが大事であるとし「“はたらく”とは“端楽（周囲の人を楽にする、楽しませる）”である。働くことによって周りの人の役に立ち喜んでもらい、社会に貢献し、そのことを喜びとして人生を価値あるものにしていくことである」と説いた。

最後に、将来働くにあたり意識してほしいこととして① AI、ロボットにはできない仕事をするため、人間ならではの能力（コミュニケーション能力、忍耐力等）を磨くことが重要、②プラス思考でいること、であるとし「世の中は失敗だらけである。失敗から学ぶことにより前向き・建設的な思考、感謝、協調性などを培うことが必要。たくさん失敗し、そこから学び成長していこう」とエールを送り、講義を締めくくった。



<伊東潤一郎氏（アイティオ㈱取締役社長）>

伊東社長はまず、中学生では将来何になりたいかがまだよくわからない人が多いとした上で「なぜ勉強が必要か。どの職業に就くかわからないため、選択肢を広く持つためである」と訴えた。続けて、医師には、患者から病状などを聞き出すコミュニケーション能力が必要と聞いたとして「例えば国語の授業で聞く力や伝える力を学ぶことが、今やるべき勉強である」と強調した。

次に、自社製品は社会に便利さを提供していると「働くことの目的は人を幸せにすること。働くとは、社会や周囲の人を幸せにすることの積み重ね」と語りかけた。さらに、便利なものをつくるには不便さに気付くことが必要とし「目の前のことに興味を持ち気付いて初めて、

自分の行動が決まる。色々なものに興味を持ち、気付く人になってほしい」と訴えた。

人生で重要なこととして①成功の反対は失敗ではなく何もしないこと、②人生には与えたものが返ってくるという目に見えない法則がある、③与えられた課題は先送りできるが逃げ切ることはできない、を挙げ「この意味が理解できた時、人生がより豊かなものになると思う。1日でも早く気付けるよう努力してほしい」とアドバイスした。



<島田好美氏（㈱島田商店代表取締役）>

島田代表ははじめに「なぜ働くのか、仕事ってどんなイメージか」と問いかけた。生徒から出た回答全てが正しいとし「良い面、悪い面を全て含んだものが仕事である」と強調した。続けて、中学生から高校生になると、なりたい職業は憧れからいくらか現実を見据えたものに変わることを示した上で「AIがさらに進化すると、今はあるがなくなる仕事、今は無いが新たな仕事必ず出てくる。状況が変化していくことを、働くことや職業選択を考える際に意識する必要がある」と訴えた。

次に、男女共同参画や働き方改革、多様性の認め合い、SDGsなど今後さらに重要となる事項を挙げ「SDGsが求めていることは、簡単に言えば“このままでもいいのか、

考え直すこと”である。今よりも少し視野を広げてみるのが求められる」と説いた。

最後に、なりたい職業を見つけるには①アンテナを拡げること、②思い込み（先入観）に縛られない、③ステージ（自分が居られる場所）を広げることが重要であるとし「周りの大人たちは皆さんを見守っている。なりたい自分を見つけるためにたくさん迷って、悩んでほしい」とエールを送った。



<久郷慎治氏（㈱久郷一樹園代表取締役）>

久郷代表は自己紹介としてまず、元々は造園業に従事する気が無く、他の仕事に従事していたこと、周囲から跡継ぎといわれる中で少しずつ造園の勉強をし始め、自ら学びたいと思い大学へ進学した上で跡を継いだことなどを紹介。「それまでは働くことはアルバイト感覚だったが、お金を得るだけでなく、仕事を通じて人に喜んでもらった時、自分の中に人を喜ばせる力があることを知ったことで、働くことの喜びを感じた」と語った。

次に、働く上で大事にしていることとして“感謝すること”とし「お客さんがあってこそ仕事ができる。感謝の気持ちを仕事で表し、お客さんから感謝される“感謝のキャッチボール”が重要」と強調した。続けて、この

ためにはコミュニケーション能力の向上が必要とし「お客さんと直接、会話する中でよい仕事ができる。伝える・聞く・書く力を養うことが大事である」とアドバイスした。

最後に、働くことは生活のためだけでなく、働くことを通じてまわりに喜びを与えることが重要であり、そのような全ての仕事は尊いとし「社会の一員として働くことを通じて、まわりの人に喜びを与え、自身も喜びを感じられるようになってほしい」とメッセージを送った。



<高林幸裕氏（北電産業㈱取締役社長）>

高林社長ははじめに“なぜ働くか”を考える際には働く動機やモチベーションをひとつでも多く持つことが重要であるとし「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る。仕事に前向きに取り組むための動機やモチベーションをきっかけとして、働くことを考えることが重要。今後、日々の勉強や様々な人の話を聞く中で進路を考えていってほしい」と説いた。

次に、時代の流れによって就職人気企業ランキングは変化するが、職業に貴賤など無く、雑用という用はひとつもないとし「コロナ禍でかつてないほど社会環境が変化している。ダーウィンは“唯一生き残ることができるのは、変化できる者である”と言った。変化に対応でき

るよう柔軟に考えることが、これからさらに求められる」と訴えた。

最後に、社会生活では対人折衝能力や協調性、行動力など様々な能力が必要になるとし「社会人になると、教科書に書いてあることはそのまま出てこない。毎日の勉強や部活動の積み重ねを通じて“地頭”を鍛えることが大事であり、今やっていることは決して無駄ではない。“能力”とは“やる気”であることを意識し、充実した時間を送ってほしい」とエールを送り、講義を締めくくった。



<高瀬幸忠氏（スカイインテック㈱取締役社長）>

高瀬社長ははじめに、自社の事業やSDGsの取り組みを紹介し①正直、誠実であること、②社会を超えること（社会の期待の上をいく）、③良き社会のメンバーであること、が理念であるとした。また、挨拶を重視しているとし「挨拶の“挨”には“押す”、拶“には”押し返す“という意味がある。つまり、挨拶は人と人のコミュニケーションの基本である」と強調した。

次に「なぜ働く必要があるのか」と生徒に問いかけ、回答全てが正解であるとし「当社グループ元経営者の中尾哲雄氏は①生きること・働くことは自分の価値を世に問うこと、その姿勢を持ち続けることが大切、②この仕事は世の中に必要とされているかを自問自答しながら、仕事自体を成長させていく気構えが重要、③生きること、

働くことを通じて豊かな人間になっていく努力を続けてほしい、と語った。当社は人の成長を特に大切にしている」と語った。

生徒から「一番苦しかったことは」との質問に、県外勤務時の担当業務で、納期直前にスタッフが数名欠け、これを補うため欠けた人数以上の人員でフォローしたことを挙げ「納期を守り顧客に迷惑をかけなかった。悪いことは避けたいものだが、時には向き合うことが必要である」とアドバイスし、講義を締めくくった。



<福崎秀樹氏（㈱フクール代表取締役）>

福崎代表はまず、かつて開発された機械・システムを5,000万人が利用するまでに要した期間（電話75年、ラジオ38年、テレビ12年、インターネット4年、LINE399日）を提示し、科学技術は二乗的に進化・普及してきたとして「過去40年間で起きた変化のインパクトはこれから5年で起きるといわれる。科学技術をはじめ、これから生きていく社会はどんどん変化することを意識しなければならない」と強調した。

次に、今ある仕事の約半分はコンピュータ、AIで自動化できるとした上で、AIで代替可能な仕事と置き換わらない仕事の違いについて問いかけた。生徒からの回答は全て正しいとし「正解を当てるのではなく考えるこ

とが大事。技術や社会の進化に併せて自身も変化していく必要がある」と訴えた。

最後に“美味しいものを食べたい”と考えた場合、お金など何かを手に入れなければならないが“美味しくものを食べたい”と考えると、一生懸命仕事した後や友達と一緒に食事など誰でも容易にできるとし「“考え方”は重要。考え方は自分次第で変えられる。常に自己の最善を尽くすことが大切であり、この繰り返しで未来をつくっていく」と熱く語りかけ、講義を締めくくった。



第6回 富山県立富山商業高等学校

令和3年7月15日(休)、尾城敬郎氏(三菱商事株北陸支店長)が富山県立富山商業高等学校(東瀬義人校長)にて、3学年275名を対象に「社会に踏み出す為に」と題して講演を行った。

尾城支店長はまず、社会の“波”を目一杯被った人ほど強くなるとし“社会に出るとは”について3つのキーワードを示し語りかけた。

(1)責任の傘を自分で差すこと 社会人になると自分で傘を差すこと、その傘で自分や友人を守ることが求められる。

(2)自分で坂道を歩くこと 人生には上り坂、下り坂、まさか、の3つの“坂”がある。まさかの時に滑らかに対応できるかが重要である。

(3)仲間を増やすこと 自分のためでも、周りのためでもある。卒業証書自体はいつか色褪せるが、友達や友情という証書は色褪せない。

次に、社会の“新3K”は期待して・機会を与え・鍛え

ること、実施には仲間が必要とし、求められる仲間の像として①共感できる人、②時代やTPOに合っている人、③この人のためについてくる人を作れる人、④道しるべを伝えられる人、であると説いた。

最後に、マイケル・ジョーダンの言葉“挑戦しないなんてありえない”を紹介し、トライアスロン(Triathlon)は“Try!明日論”と読めること、Impossible(不可能)という単語に「I」を付加するとI'm possible(できる)となることを示し「社会に出てからはネガティブをポジティブに見方を変えることも必要。社会の為、困っている人の為に何ができるかを意識してほしい」とエールを送った。



「明日の自分は自らがつくる。明日に向かって歩いてほしい」と尾城支店長

第7回 片山学園高等学校

令和3年7月16日(金)、伊東潤一郎氏(アイティオ株取締役社長)が片山学園高等学校において、1学年国際科学探求コース8名を前に「働く事と幸せに生きる事」をテーマに課外授業を行った。

伊東社長はまず、いつかは進路など人生(進む方向)を決める必要があるとし「夢を持つこと、それがかなうよう努力することは大事。ただ、夢は不変ではない。どの道にも進めるよう準備することが勉強すること」と説いた。続けて、勉強することの意義として「人生の中で選択肢を多く持つことは重要。勉強しなければ選択肢は減っていく」「道は遠いところまで見えたほうがよい。遠くまで見るための“高さ”は好奇心により培われる」と訴えた。

次に、これからの人生の中で大切な3つのことについて語りかけた。

(1)“成功”の反対は“失敗”ではなく“何もしないこと”。

失敗には必ず意味があり、その先に成功がある

(2) 人生には、与えたものが還ってくるという目に見えない法則がある。

自分が人に、世の中にしたことが後に、必ず自分に還ってくる

(3) 与えられた課題は、先送りできるが逃げ切ることができない。与えられた課題には積極的に取り組むことが大切

最後に、これまでに様々な人から聞いた話の意味、いつ気付くかによって幸せになる速度が異なるとし「いろんな人の話をよく聞きながら、より早く気付けるよう努力してほしい」とエールを送り、講義を締めくくった。



「正しい答えは1つではない。“納得解”をどう出すかも重要」と伊東社長

第8回 富山県立雄峰高等学校

令和3年9月15日(水)、牧田和樹氏(株牧田組取締役社長)が富山県立雄峰高等学校において、3学年112名を前に翌日(9/16)より始まる就職活動に向けた講演会として「よりよく生きる」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長はまず、自身の大学進学や就職、事業承継の経緯などにおいて、自身の希望どおりにならなかったエピソードを紹介し「事業を継いだ際は“逃げたい”と思ったが、当然それはできない。そこで“やるしかない”と気持ちを切り替えて取り組んできたことによって成果を挙げることができた。“良い意味での開き直り”をしっかりと持つことが大事」と強調した。

次に、自分の過去は変えられないが未来は変えられるとして「未来を変えるためには努力が必要。今からでも決して遅くなく、未来に何を頑張るかを定めることが大切である」と説いた。続けて、社会に出て人と人がつ

ながるための道具は言葉であり、国語の学習が重要であると訴えた。

最後に、働き方として将来にわたりアルバイトのみとするのではなく、正社員として仕事をすることがより生きやすいととし「正社員となるには同年代での競争がある。その中で、これから未来をどう創っていくか、これから何をしていくかを考えることが求められる。周りは観ている、努力をした分だけ報酬や評価として還ってくる。皆さんには時間がある、未来がある。これを目一杯活用し立派な大人になってほしい」と熱いエールを送り、講義を締めくくった。



「未来をどう創っていくかを考えることが重要」と牧田社長

第9回 富山県立魚津高等学校

令和3年9月25日(土)、大橋聡司氏(大高建設(株)取締役社長)が富山県立魚津高等学校において、1学年160名を対象に「働くこと 学ぶこと 生きること」をテーマに課外授業を行った。

大橋社長はまず、自己紹介を兼ねて建設業以外の事業にも取り組んでいることを紹介し「分からないながらも一生懸命に取り組みチャレンジすることが自己成長につながった」と語った。続けて、自社に今年度、外国人の新入社員が3名入社し、それぞれが努力して英語や日本語を習得したことを紹介し「みなさんが社会へ出る頃にはダイバシティ(多様性)は当たり前になり英語のスキルは必須となる。様々な機会を積極的に活用し勉強してほしい」と訴えた。

次に、東京五輪を契機に日本人の持つ非認知能力(礼儀正しさ、時間の正確性、おもてなしの心など)が世界中で改めて評価されているとし「AI時代にまさに必要

な資質である。これらを伸ばし、世界で活躍できるように成長してほしい」と説いた。

また「働」という文字から、働くとは“人が動く”こと、そして“傍楽(周囲の人を楽にする、楽しませる)”こと、よりよく働く力は①経験する力、②経験から学ぶ力、③経験を注ぎ活かす力、④人と協働する力、⑤現実に対峙する力であること、よりよく生きるためには①多・長・根(多面的、長期的、根本的)な視点、②感謝の心が重要であるとし「これからの人生でも、新しいことにチャレンジしてほしい」とエールを送り、講義を締めくくった。



「成長のためには積極的にチャレンジすることが重要」と大橋社長

第10回 入善町立入善中学校

令和3年9月29日(木)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長)が入善町立入善中学校において、2学年102名を前に翌日から実施する「社会に学ぶ14歳の挑戦」に向けた講演会として「働くこと」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長はまず「世の中でこれが無いと生きていけないものは」と問いかけ“お金”と答えた生徒を称賛した上で、我々はお金を媒体とした経済の中で生きており、お金は重要であると説いた。続けて、結果は同じでもお金のために働くのと、働いた結果としてお金をもらうのでは意識が大きく違うこと、働くこととお金の流れ(社員は働いて商品やサービスを作り出し、お店は商品・サービスをお客へ提供する。お客は代金を支払い、これが給料を支払う元となる)を示し「この流れは全て繋がっている。働いた成果は代金を頂くことであり“がんばって働く”ことが重要。社会に学ぶ14歳の挑戦では、どのようにしてお店はお客からお金をもらっているか、よく

見てきてほしい」と語りかけた。

次に、仕事のスキル上達には努力が必要であり、努力した分だけ必ず結果が出るとし「一生懸命働くことで成長し、人生をより豊かにできる。働くことは①生きていくためのお金を得ること、②自身の成長を図ること」と訴えた。

最後に、学校へ行っている期間は働き始めるまでの準備期間であること、働く上では相手を理解する力が求められ、これに必要な知識を養うのは日々の学習の積み重ねであるとし、努力は決して裏切らない。一生懸命努力し成長してほしい」とエールを送り、講演を締めくくった。



「相手を理解する力を養うのは学校での勉強“そのもの”」と牧田社長

第11回 富山第一高等学校

令和3年10月7日(木)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長)が富山第一高等学校において、2学年387名を対象に「よりよく生きる」と題し課外授業を行った。

牧田社長はまず、AI(人工知能)は多数のデータを基に統計処理により答えを導き出すが、日々の生活は正解のない決断の連続であるとし、「よりよく生きるとは、よりよい決断をすること」と語りかけた。続けて、よりよく判断するためには勘や直感で決めるしかないとし「これらの潜在的洞察力は、これまでの経験などの蓄積、すなわち知恵が元となる。学校での日々の学習はまさにこの源であり大変重要」と訴えた。

次に、知恵を形成する際に必要となる情報には静的情報(本・ネットなど:一方向)と動的情報(会話、セミナーなど:双方向)があり、このうち動的情報は人から

学ぶものであるとし「動的情報は人脈を築くことにより形成される。人と人との間に存在する“心(意識)”を大切にすることが必要」と説いた。さらに、人と人との間の心の変化として「興味→好意→共感→信頼→尊敬」の順に深くなっていくとし「これらのベースにあるものは思いやり。思いやりのある人が良好な人脈を築くことができる」と強調した。

最後に「相手の話をよく聞くことが思いやりの第一歩。これらを意識しよりよい人生を送れるよう努力してほしい」とアドバイスし、講演を締めくくった。



「わがまを控え思いやりの心を育てることで、友達が増え決断の精度が上がる」と牧田社長

第12回 富山県立小杉高等学校

令和3年10月13日(水)、山野昌道氏(株)チューリップテレビ取締役社長)が富山県立小杉高等学校において、1学年160名を前に「企業が求める人物像、3つのポイント」をテーマに課外授業を行った。

山野社長ははじめに、なぜ働くのかと問いかけ「社会はみんながつくるものであり、働くとはその中で一人一人が何らかの役割を担うこと」と語りかけた。続けて、大学時代はアナウンサー志望だった自身の経験から「自分の夢は持った方がよいが夢や考え方は変化していく。夢を具体的に描けなくとも“自分は何に向いているのか”を考え、実現に向けた目標を持つことは必要。日々考え、行動し続け1日1日を一生懸命生きることが重要」と説いた。

次に、これからの時代にはプロフェッショナルであること、共助の精神、人間でなければできないこと(真面目さ、外向性、協調性など)の重要性がさらに高まり、

企業を取り巻く環境としてチームで動くことや、先行きの不透明さ、社会で役に立たないと生きられない状況がより顕著になるとし「公的機関も同様だが、これからの時代に企業が求める人物像は①チームプレーのできる

人、②未来を切り開ける人、③正しい倫理観を持った人であり、必要な資質は誠実・熱意・行動力である」と訴えた。

最後に、人生を楽しむ3つのコツとして①迷ったら「やる」、②人のせいにしない、③ポジティブ・シンキング、を挙げ「人生は選択の連続、どちらが正しいかは一生分からない。選んだ方が正しいとし、未来に向かって1日1日を積み重ねよう」とエールを送った。



「成功した人は必ず努力している」と山野社長

第13回 高岡市立志貴野中学校

令和3年10月27日(水)、在田吉宏氏(株)アリタ取締役社長)、神崎直志氏(三井物産(株)理事・北陸支社長)、張田真氏(ハリタ金属(株)代表取締役)、山野昌道氏(株)チューリップテレビ取締役社長)が高岡市立志貴野中学校において、2学年を対象に各クラスで課外授業を行った。

<2年1組> 在田吉宏氏

「将来のために、今やるべきこと ～誰かの創造と行動が未来を作る～」

在田社長はまず、商社勤務時代に海外に駐在した経歴を紹介。世界はチャンスと可能性で満ちており、どう活かすかは自分次第とし「知らない世界の方がはるかに大きい。柔軟な発想で自分の世界を広げることで、将来活躍できる場が広がる」と強調した。また「一方で、自分の世界しか見えていないということ。見えている世界を突き詰め如何に広げることが大事」と説いた。

さらに、機会を頂くことは期待されている証であるこ

と、外国人の友人との交流で世界が広がったことを紹介し「広く浅い世界から深く関わりたいと感じ、考える機会を得た。何か機会を見つけ、失敗を恐れず自分で体験し自分のこととして捉えるよう取り組んでほしい」と訴えた。また「よりよく楽しく生きるには、自分の考えや判断基準をつくり行動することが重要。いろんな情報を吸収し考える力を養ってほしい。世の中は、みなさんが創造したとおりに作られるし、変わる」と語りかけた。

最後に「様々なことをイメージし、これからの世の中を広げてほしい、みなさんが主役」「興味をもって世界を広げることが、将来のチャレンジ、次の機会につながる。自身や家族が幸せになるよう、考えながら深掘りしてほしい」とメッセージを送った。



<2年2組> 神崎直志氏

「あなたはなぜ働くのですか?なぜ勉強するのですか?」

神崎支社長ははじめに、働く理由について、生きるためにはお金が必要だがお金を目的として働く楽しさや自己成長は見込めないとし、「人口減少時代で一人一人の価値が上がっている。これからの時代は機械にはできない想像力を発揮する仕事を選ぶことが重要」と説いた。

次に、目指すべきは「価値ある仕事をできるか、産みだせるか」であるとし「自ら打ち込める、好きな仕事をやればよいと思っている。そのためにはまず、自分は何が好きかを考えてほしい」と訴えた。続けて、魚が好きだった後輩社員が養殖事業に従事する中で、その仕事を一生続けたいとして退職したエピソードを紹介し「なり

たい自分を見つけるために、好きなことを自分で見つけることが大事」とし、その為には、読書や先輩・友人などを通じ情報を集める必要があると説いた。

最後に、なぜ勉強するのかについて「今の自分と、なりたい自分とのギャップを埋めるのが勉強。学校での勉強は大人になった際に役立つ重要なこと」とし「勉強は自分のためにするもの。自分のためであれば、やらされる辛いものではなくはらず」と訴えた。「皆さんには無限の可能性がある。自分の可能性を信じ、努力しよう」とエールを送り、講演を締めくくった。



<2年3組> 山野昌道氏

「人生を幸せにする3つのコツ」

山野社長ははじめに、なぜ働くのかと問いかけ「社会はみんなで作るもの。学生と社会人の違いは、社会をつくる一員になるかどうかである」と語った。続けて、大学時代はアナウンサー志望だった自身の経験を紹介し「やりたいことや夢を持った方がよいが、これらは変化していく。自分は何に向いているのかを考え、見つけることが必要。そのためには考え行動し続け、1日1日を一生懸命生きることが重要」と説いた。

次に、自身の経験を基に仕事のやりがいについて、「やりがいのある仕事は辛く、厳しいことが多い。苦勞のないところにやりがいはなく、苦勞がない人生に感動や感激はない」と強調した。さらに「苦勞が大きくなるにつ

れ、やりがいが大きくなると思っていたがそうではなく、努力して何かを達成するとその瞬間、苦勞はやりがいに変わる。やりがいは自分でつくるもの、努力した人がみな成功しているわけではないが、成功した人はみな努力している」と訴えた。

最後に、これからの人生を幸せにする3つのコツとして①迷ったら「やる」、②人のせいにはしない、③何をやってもうまくいくと考える、を挙げ「人生は選択の連続、どちらが正しいかは一生分からない。選んだ方を正解とし、未来に向かって命努力しよう」とエールを送った。



<2年4組> 張田真氏

「社会人と考える自分の「生き方」」

張田代表はまず、テストでは式と答えが初めから設定されているため簡単だが、人生は式も答えも自分で考える必要があり、その組み合わせは無限にあるとし「自分で式を立て答えを導くことが、生き方を考えるということ。そのためには学びが必要である」と説いた。続けて、人の幸せにルールはないがパターンはあるとし「人間は、他人の幸せに関わるという生き方に幸福感を感じるもの」と強調した。

次に、人間の遺伝子レベルでは“変化は危険”と判断すること、人間は自らの力では変わらないとした上で「“なぜ”を少しでも理解できれば勉強の動機を見つけられ、学びに対する感覚を変えられる」と訴えた。さらに、学びはよりよく生きるための手段であるとし、「な

ぜ学ぶのか、自分の夢や目的を考えよう。夢や目的を持ち、勉強（イヤイヤ）を、学び（ワクワク）に変えていこう」と語りかけた。

最後に、自分の現在地と夢・目的の点検に使える3つの言葉として、やりたいこと、できること、すべきこと、を挙げ「やりたいことが先行しがちだが、当てはめれば本当にすべきことが見えてくるし、この3つが揃うと人生の充実感が高まる。、足元の小さな幸せを気づく力、感じる力を磨いてほしい」とエールを送り、講演を締めくくった。



第14回 高岡市立高岡西部中学校

令和3年10月28日(木)、村尾于尹氏(株)村尾地研取締役会長)が高岡市立高岡西部中学校において、2学年113名を対象に「君たちに期待する」と題し課外授業を行った。

村尾会長はまず、中国を訪問した際のエピソードとして、高額な代金を払いパンダと写真撮影した際“一生のうちにパンダと撮影できる機会はそうは無い”と勧めてくれた先輩の言葉や代金が研究費などに充当されると知ったことを紹介し、まずやってみることの重要性を説いた。続けて、中学2年の時に職員室へ呼び出され、高校受験に失敗した方の名前が記載された黒板の前で、“君の名前も書かれないか?”と言われたことを披露し「これを機に、1年生の教科書から勉強し直した。勉強に一生懸命取り組むことはとても大事である」と訴えた。

次に、赤痢菌の発見等により文化勲章を受章した医学者・志賀潔が、こよりで補修した眼鏡をかけている写真を提示し

「志賀は普段から飾らず、写真も普段のままを撮る人だったという。見た目だけで物事を判断してはいけない」と説いた。

また、鷹の目・蟻の目(視点)を例に「スマホ・タブレットはいわゆる蟻の目。鷹の目から見ると、物事の全体像など様々なことがわかる。一段高い視点で物事を見る習慣や見通す力を養い、知力を磨いてほしい」とアドバイスした。

最後に、身体・頭・心を鍛えることが大変重要であるとし「鍛錬を通じ肉体的、精神的に発達すること、この蓄積が生きていく土台となる。日々、研鑽を積み上げよう」とエールを送り、講演を締めくくった。



「叩かれる(=鍛える)ことを嫌がらない心を持とう」と村尾会長

第15回 射水市立中太閤山小学校

令和3年11月9日(火)、遊道義則氏(株ユニオンランチ取締役社長)が射水市立中太閤山小学校において、6学年59名を対象に「夢を持とう、追いかけてよう、そして叶えよう～夢と目標と目的と…～」と題し課外授業を行った。

遊道社長ははじめに「あなたの夢は何ですか」をテーマに、隣の生徒同士で話し合うよう呼び掛けた。同じテーマで話し合っても①“なれたら”いいです、②“なりたい”です、③“なること”です、という表現はそれぞれ、①は希望、②は欲望、③は目標を意味するとし、言葉の不思議さ・大切さを説いた。

次に、人生で大切なことは①願望を具体的に“決めること”、②感じたこと、思ったことなどを“分かち合うこと”、③自分や相手に対し“正直なこと”であるとし「人生は決めること選択の連続。起こった出来事、過ぎた時間は元に戻らないが、そのことに対しどのような“前向きな意味付け”をするかが大事。これは、その努力をした

ものだけが得られる習慣である」と語りかけた。そして「今の自分を卑下せず可能性を信じ、今の自分に満足せず持てるだけの選択肢を持つこと、その為の努力をすることが重要である」と訴えた。

最後に、目的と目標の違いに触れ「人生において、目的とは追求するものであり、目標とは達成するもの。人生の目的を早く見つけた方が目標の設定はしやすいが、目的が見つからなくとも目標を達成していくうちに方向性は見いだせる。時間をかけて努力し一生懸命生きることが大事。どんどん成長しよう」とエールを送り、講演を締めくくった。



「夢を見つける秘訣は、常にアンテナを高くすること、感性を磨くこと」と遊道社長

第16回 高岡市立南星中学校

令和3年12月3日(金)、高岡市立南星中学校において、2学年172名を対象に課外授業を行った。「社会に学ぶ14歳の挑戦」の代替として実施され、当会より講師8名を派遣した。生徒は希望する講師2名分の講演を聴講した。

<荒井洋平氏(株宝来社代表取締役)>

荒井代表はまず「デザインって何?」と語りかけた。ポスターや色・形・模様、デザイナーなど、多くは見た目のことを思い浮かべるのではとした上で「イメージやアイデアを形にすることや設計図など伝えたいことを形にする、何かを計画して実現することもデザインの重要な要素。音や匂い、触れることをデザインする人もいます」と、デザインの幅広さ、奥深さを説いた。

次に、デザインには必ず目的があると「スティーブ・ジョブズは“デザインは単にどう見えたり感じたりするものではない。デザインはどう機能するかである”と言

った。例えばお店をつくる場合、単にお洒落、かっこいいではなく、売上アップなどの課題があり、それを解決するために計画・実行するのがデザインの役割。結果として美しければよいというのがデザインの本質」と訴えた。

最後に、世の中の見えている物の大半はデザインされており、物だけでなくまち全体をデザインする職業もあるとし「自分の好きなものを題材に、誰がデザインしたのかなど想像を膨らませてみよう。ここから様々な仕事、職業が見えてくる。働くことは社会と関わること。自分はどうか社会と関わるのか、考える練習をしてみても」とアドバイスした。



<碓井一平氏(Labore 株代表取締役)>

碓井代表はまず、中学生の時点で既に、個人が持つ能力の面で平等ではないとし「自分で努力しなければその差は絶対に埋まらないし、愚痴をいっても誰かのせいにしてスタート位置は変わらない。今後の人生で様々な選択に迫られるが、同じ学年・クラスでもスタート位置が違うことを今から理解すべき」と強調した。

次に「1日のうち12時間以上熱中できることはあるか」と問いかけ、絵を描くこと、昆虫の勉強と答えた生徒を称賛し「寝食を忘れて好きなことに集中できるのは素晴らしい。やりたいことは自ら見つけることが必要。野球に例えると打席に立たないとヒットやホームランは打てない、三振でもいいので数多く立つことが重要」と説いた。

最後にお金がないからできないという考え方はやめて欲しいとし「お金はとても大事だが単なる道具に過ぎない、お金のために人生を決めるのはもったいない。お金のために生きるのではなく自分のために生きてほしい。大きな夢を描いた人が、大きなことを成し遂げられる。みんなにはたくさんの可能性がある、必ず成し遂げられるとは限らないが夢無くして努力はできない。自分のやりたいこと、自分のために命を燃やして」と熱いエールを送り、講演を締めくくった。



<土屋誠氏（日本海ガス㈱取締役社長）>

土屋社長はまず「あなたは将来どんな仕事に就きたいか」と問いかけた。大半の生徒が決まっていなくて回答したのを受け「気にしなくてよい。時間を大切に、見聞を広めながら考えていけばよい」とアドバイスした。さらに「今後、どんな仕事に就きたいか、からどの会社に入りたかや仕事内容の希望など、視点が変わるかもしれない。大切なのは、どの仕事に就くかより、毎日楽しくやりがいを感じ幸せと思えるよう、働くことに向き合えるかである」と訴えた。

次に、東日本大震災の際に東北のガス事業者への応援に社員15名が志願し、任務を遂行してくれたことを紹介し「出世や給料も大事かもしれないが、個人やチームで目標を成し遂げる達成感や会社の使命を担う責任感、誰

かの役に立つ満足感を働く意義として捉えている社員も多く、この気持ちはとても大切である」と強調した。

最後に、自分が頑張っ
てうれしいと感じたことを
問いかけ、部活や合唱コンクールを挙げた生徒を称賛し「希望が必ずしも叶うとは限らないが、働くこと・仕事とどう向き合い、何にやりがいを感じるかが重要。学校生活の中で感じたことを、働いても同じ気持ちを味わうために今、頑張ることが大事」とエールを送り、講演を締めくくった。



<羽根敬喜氏（富美菊酒造㈱代表取締役）>

羽根代表はまず、自己紹介として子供の頃からお酒へのイメージが良くないまま他社で修行し「送別会で“君は酒づくりせず経営に専念した方がいい”と言われ、落ち込んだ気持ちの中で継いだ」ことを語り、何事にも一生懸命取り組むことの重要性を説いた。

次に、家業を継いだ当初は経営の危機の中で、品評会で受賞する酒を造るも状況が改善されなかったこと、酒づくりに対する真摯な姿勢が足りない指摘されたことを契機に自らが商品開発・醸造に従事したエピソードを紹介し「この頃、お金への執着心がなくなり、価格に関係なく技術を全力投入しお客様に信頼される商品づくりが必要と感じた」と語り、お金のためだけでなく、人を

喜ばせるものづくりの大切さを訴えた。

生徒から「仕事は楽しいか、やりがいや苦労は」と尋ねられ「辛いことも多いが、遠方からお酒を買いに来られたり、感謝された時は幸せな気持ちになる。やりがいととも、真剣に仕事に向き合わなければと感じる」と答えた。また「くじけそうになった時の立ち直り方は」との問いに「自身は失敗の連続だがそこから学んできた。諦めずにリベンジの機会が必ず来ると信じ、努力し続けることが重要」とアドバイスした。



<尾山謙二郎氏（マンパワーセキュリティ㈱代表取締役）>

尾山代表はまず、各々の個性が絡み合い、上下関係なく時代を創る、つながりの社会へと今後急速に変化すると指摘し「自立や自己責任がさらに強く求められる」と強調した。続けて、時代が変わろうとも不変なものがあるとし「自分の中でものさし（判断基準）を持ってほしい。どれが本当かを見極めること、損得や正誤ではなく“善悪”で判断することが重要」と説いた。

次に、終末期医療従事者の著書に、患者に後悔していることをアンケートした結果 ①色々挑戦しておけばよかった、②もっと自由に生きればよかった、が多数を占めたことを紹介し「何事も挑戦が大事。涙が出るほど一生懸命取り組んだ時の挫折は意味が生まれ、大いに学べる」と語りかけた。さらに、後悔はやらなかったこと、反省はやって失敗

したことに対するものとし「39歳の時に、学びが必要と感じ通信制の大学に入学した。取得学位自体は在生学生と同じだが、18歳の時に学ぼうとしなかったのは一生の後悔、後悔する人生は送ってほしくない」と訴えた。

最後に、人生は選択の連続であり、今あるものから選ぶのも、自分で創り出すのも答えであるとし「答えを創るために勉強が必要。みなさんの存在は先祖の誰ひとり欠けても成らず、もはや奇跡。それだけ、みなさんには価値がある。何事も一生懸命取り組んで」と熱いエールを送った。



<京田憲明氏（株富山市民プラザ代表取締役）>

京田代表はまず「あなたが今、22歳の社会人として一人暮らしする場合、1か月あたり何にいくら必要か想像してみよう」と問いかけた。生徒に費目を挙げてもらいながら「自分が暮らしたい生活に必要な収入を考えることは、進学・就職など様々な岐路で選択する道を考えることにつながる」と語りかけた。さらに、収入を得る手段として働くことは大切とした上で「生きがいを感じるなどの自己実現や社会に参加することも働くことの重要な目的」と訴えた。

次に、前職である公務員の仕事・役割について、民間企業で働くこととの違いを基に説明するとともに、働く形態として正規雇用・非正規雇用があるとし「それぞれの長所・短所を理解した上で、どの働き方を選択するか

考えることが重要」と説いた。続けて、社会人として初めて勤務した部署、異動した部署でのエピソードを紹介し「どんな仕事でも積極的にやっていると楽しくなってくるし、他人も認めてくれる。面倒な仕事は達成感・充実感も大きく、面白い」と強調した。

最後にもう一度、あなたが今、22歳の社会人だったらと想像しようとし「長期の見通しを持ち、自分の生き方考える必要がある。自分が望む姿の実現は容易ではないが、まずは、自身の考えをしっかりと持つことが最も重要」とアドバイスし講演を締めくくった。



<開章夫氏（昭和建设株代表取締役）>

開代表はまず、働いてお金を稼ぐことは生活していくためには必要とした上で「働く意義はそれだけではない。他の人ができないことを代わりにやってあげるなど誰かの役に立つこと、不便なことを便利にし人を喜ばせることも働く重要な意義である」と説いた。

次に、建設業の仕事内容は以外に知られていない面があるとし、建設業は土木と建築とに大別されること、職種として、土工やとび職などある作業に特化して担う、いわゆる”職人”や、工事全体をまとめ設計、工程・品質管理を担う現場監督などを、動画を交えて紹介。「新しく建設することや補修・更新だけでなく、災害復旧や除雪なども建設業が担う重要な役割。地域のために大きな役に立つ仕事であり、手がけた仕事が世に残る、誇り

を持てる仕事が建設業」と訴えた。

最後に、これからの仕事のあり方として、業種に関係なく、かつては想像もできなかったような職業が出てくる、あるいは造り出せるとした上で「共通するのは、人を喜ばせること、やってもらって嬉しいこと、自分にはできないがやってくれたら助かること、すなわち誰かのためになることが仕事になるということ。このような仕事に就くためには、自分の能力を高めていく努力を続けることが必要」とアドバイスし、講演を締めくくった。



<若林健嗣氏（日本海電業株代表取締役）>

若林代表はまず「おいしそうなくだもの」「かっこいい乗り物」を描くゲームを行い、描いたことがデータ化という行為であるとし「データとは、伝えることを目的に対象物を情報で記述したもの。多くのデータが集まると、その関連性によって意味が生じる」と語りかけた。さらに、データの強みは伝える・保存できることや関連づけた分析ができることに加え、人の行動を変えることとし「データの活用は社会をより安全にし、人間の活動を助け、SDGsなど様々な分野で良い効果をもたらしている」と強調した。

次に、現代はデータとその活用技術に関わらずに生きることはほぼ不可能であり、データの良い面・悪い面に向き合わなくてはならないとし「バーチャルの存在がかってないほど大きくなっている。SNSなどのアカウン

トを持つ人は、ネット空間上にバーチャルな存在を保有している。バーチャルばかりに時間を割かず、リアルを大事にして」と訴えた。さらに「みなさんは既に、バーチャルな存在、データの一部になっていることを自覚し、データに流されず道具として使う術を学ぶことが必要」と説いた。

最後に、「リアルとバーチャルが二重につきまとう時代、何が大事かを見極めることが必要。自分のリアルを大事にすると同時に、他人のリアルへ敬意を持とう」とアドバイスした。



第17回 富山市立山室中学校

令和3年12月10日(金)、遊道義則氏(株ユニオンランチ取締役社長)が富山市立山室中学校において、1学年187名を対象に「夢を持とう、追いかけてよう、そしてかなえよう～夢と目標と目的と…～」と題し課外授業を行った。

遊道社長ははじめに「あなたの夢は何か」について、隣の生徒に話してみるよう問いかけた。話したこと・聞いたことに対し「同じ題目で話しても、①なれたらいい、②なりたい、③なること、はそれぞれ、①は希望、②は欲望、③は目標を意味する。言葉は不思議であり、とても大切」と語りかけた。

次に、人生で大事なことは①決めること(どうしたいのか)、②分かち合うこと(したこと、感じたことを)、③正直なこと(真実を言う)であるとし「これからの人生は選択の連続。起きてしまったことや過ぎた時間は元に戻らないが、そのことにどんな意味を付けるかが重要

であり、努力したものが得られる”習慣“となる」と訴えた。そして「人生とは、常に何かを選択しながら知識や能力、技術などを向上させ、幸福を追求し続ける旅である」と説いた。

最後に、成長とはできなかったことができ、知らなかったことがわかり、気づかなかったことに気づくことであるとし「自分を卑下することや現状に満足することなどは成長を妨げる。自分の可能性を信じよう、持てるだけの選択肢を持とう、そして何事にも挑戦しよう。そして、大きな夢を持とう」とエールを送り、講演を締めくくった。



「常にアンテナを高くし喜怒哀楽を大切に、感性を磨くことが重要」と遊道社長

第18回 富山県立富山高等支援学校

令和3年12月14日(火)、上田信和氏(砺波工業(株)取締役社長)が富山県立富山高等支援学校において、全校生徒52名を対象に「夢に向かって付けたい力」と題し課外授業を行った。

上田社長はまず、座右の銘は“疾風に^{けいそう}勁草を知る”であるとし「日頃から、逆境であってもこれに耐えられる人間になりたいと考えている。みなさんも辛い時があっても諦めず、強い意志を持とう」と語りかけた。さらに「皆さんの夢は何ですか?」と問いかけ、自身が高校生の頃、バンドを組みたいと思っていたことに触れ「早いうちから、やりたいこと・こんなことがしたいなど想いを巡らせることが大事」と説いた。

次に、モノや情報が世の中に広がる速度、時間の流れが急速に速くなると同時に、大きな変化も起きているとし「ダーウィンは“唯一生き残れるのは変化できる者”と言った。変化に対応する力を身に付けることが今後さ

らに必要」と訴えた。続けて、社会人に大事な3つの力は①前に踏み出す力、②考え抜く力、③チームで働く力であるとし、この力の習得を下支えする要素は基礎学力、専門知識、人間性・基本的な生活習慣であり、とりわけ挨拶や思いやりなど人間性・基本的な生活習慣が最も大事」と強調した。

最後に、歌手・さだまさしの楽曲「主人公」(1978)の一節を引用し「自分の人生においては自分が主人公。自分の想いややりたいことを見つけ、一生懸命生きることが大切。そのためにもぜひ、3つの力をつけよう」とアドバイスし、講演を締めくくった。



「色々な個性を社会は求めている。みんなも頑張ってもらいたい」と上田社長

第19回 富山県立雄山高等学校

令和3年12月16日(木)、川合紀子氏(南ステップアップ代表取締役)が富山県立雄山高等学校において、1学年150名を対象に「働くこと、学ぶこと」と題し課外授業を行った。

川合代表ははじめに、自分の進路を考える上で、日々の勉強などが思うよういかないこともあるのではとし「悩むことも多いと思うが、出会いがあった時に成果が生まれる。まずはチャレンジしてみしてほしい」と説いた。続けて、悩んだ場合の考え方として「将来の目標・ありたい姿を描き、その実現に向け計画を立てることがポイント。将来の自分を思い描くことを少しずつ始めるとよい」とアドバイスした。

次に、特に平成以降は技術・サービスが顕著に発展し、世代間の生活スタイルも大きく変化してきたとし「先の見えない予測困難な時代に突入する中で、従来のもの

見方を変えていくスキルが求められる」と強調した。続けて、社会や学びも大きく変化していると「進路を考える際、時代の変化に合わせた自分の価値観を持つことは、未来を切り拓くために不可欠である」と訴えた。

最後に、何のために働くかはそれぞれ違って当たり前とし「考え方や価値観は、今まで学んだ知識や経験、出会った人との関係等から形成されていくもので、人間的成長は働くことを通じ人間としての魂を磨くことで得られる。変革の時代、自分の行動のものさし(判断基準)を持とう」とエールを送り、講演を締めくくった。



「意識して行動する人とそうでない人は時間の経過と共に違いが出る」と川合代表

第20回 富山大学人間発達科学部附属小学校

令和4年2月2日(水)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長が富山大学人間発達科学部附属小学校において、5、6学年139名を対象に「未来をつくるために」と題し課外授業を行った。

牧田社長はまず、例えばテストで得点が低いのは勉強しなかったからというように、現在の結果の原因は過去にあるとし「同様に、未来の結果の原因は今にあると意識することが大事」と語りかけた。また、テストの得点がアップした時や100m走のタイムが縮んだ時などは嬉しく感じるとし「数字に表れないものを含めて自分の成長を実感できた時、人は幸せと思うもの」と強調した。

次に、幸せになるためには成長を実感することが大切で、そのために必要な「評価」は人と人との関係においてされるものとし「成長を実感するためには人の役に立つことが不可欠。仕事をしてお金がもらえるのは人の役に立っているからで、どうしたら人の役に立てるか、ま

ずは相手を理解する思いやりの気持ちが必要」と説いた。さらに、人の心は「思いやり」と「自己中心的」の割合で心の状態が変わるとし、思いやりを発揮するためには自己中心的をコントロールして抑えることが大事と訴えた。

最後に、思いやりの発揮には想い・気持ちと共に実力も必要とし「実力とは体力や知力などで、これを養うために今、学校で学んでいる。友達付き合いの中で想い・気持ちを磨くことと併せて、将来人の役に立つための力を身に付けてほしい」とアドバイスし、講演を締めくくった。



「みんなの未来は今からつくるもの。必要なものは思いやりと実力」と牧田社長

第21回 射水市立大門中学校

令和4年2月9日(水)、遊道義則氏(株)ユニオンランチ取締役社長が射水市立大門中学校において1学年253名を対象に「夢を持とう、追いかけてよう、そして、かなえよう～夢と目標と目的と～」と題し課外授業を行った。(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講師は別室にてリモートで講演し、生徒は各教室にて聴講した)

遊道社長ははじめに「あなたの夢は何か、考えてみて」と問いかけた。続けて「一見同じに見えるが①なれたら(できたら)いいです、②なりたい(したい)です、③なること(すること)です、はそれぞれ①希望、②欲望、③目標を意味する。言葉は不思議であるとともに、我々を導く力がある」と語りかけた。

次に、人生で大事なことは①決めること、②分かち合うこと、③正直であることとし「人生は選択の連続であり、その時に可能な最善の選択をしている。起きたことや過ぎた時間は元に戻らないが、大事なものはどう“前向

きな意味付け”をするかである」と訴えた。さらに「人生とは、常に何かを選択しながら知識や能力、技術などを向上させ、幸福を追求し続ける旅である。抵抗を恐れず積極的に変化(成長)しよう」と説いた。

最後に、成長とはできなかったことができ(技術)、知らなかったことがわかり(知識)、気づかなかったことに気づく(感性)こととし「自分の可能性を信じ、持てるだけの選択肢を持とう。自分を卑下することや現状に満足すること、自意識過剰などは成長を妨げる、何事にも挑戦し大きな夢を持とう」とエールを送り、講演を締めくくった。



「私の夢は、古代ローマの政治家・セネカの銅像を親に行くことと、課外授業を通じて皆さんのスイッチを入れること」と遊道社長

第22回 富山市立城山中学校

令和4年2月10日(木)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長が富山市立城山中学校において、1学年94名を対象に「なぜ働くの?」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長はまず、働くこととお金の流れの仕組みとして、社員は働いて商品やサービスを作り出し、お店・会社はその商品・サービスをお客へ提供する。お客は代金を支払い、これが給料を支払う元となることを示し「流れとして全て繋がっていると同時に、働くことがこの流れのスタート」と強調した。続けて「この流れを続けるためには、提供するサービス・製品と対価が釣り合わなければならない、サービス・商品や働くことが人の役に立っていることが必要。働くことの本質は、人の役に立つことである」と訴えた。

次に、人の役に立つこととは①客・店(会社)のニーズに応えること、②(希望に応えるため)行動すること

であるとし「ニーズに応えるためにはニーズを知ることが、行動し結果を出すためには実力をつけることが必要」と説いた。さらに、実力がつく(成長する)のを感じると嬉しいとし「人間は本質的に成長を求めている。成長を実感できることはとても重要」と語りかけた。

最後に、働くことの真の目的として「お金をもらうことは大事。だがそれだけでなく、人の役に立ち成長を実感し、幸せになることも重要。学校生活はこの基礎となるもの、無駄なことは何もないので一生懸命取り組んでほしい」とエールを送り、講演を締めくくった。



「働くことの本当の目的を理解すると、生きていく意義を見出せる」と牧田社長

第23回 富山市立奥田中学校

令和4年2月18日(金)、富山市立奥田中学校において、1学年213名を対象に課外授業を行った。当日より講師6名を派遣し生徒はクラス毎に聴講した。

<1年1組>市森友明氏 (株新日本コンサルタント取締役社長)

市森社長ははじめに、学習と職業との関係について、学習の役割として夢を叶えるためや人生を切り拓くためなどがあるとしつつ「それ以外にもあるだろうが、最も大きな役割は①実用学の基礎を習得すること(その職業を实践する上で最低限必要な学力や知識)、②次の段階へ進むこと(大学や就職試験に合格する)である。中学生の時点でこれを理解しておくことが重要である」と強調した。続けて、学習した分だけ職業の選択が広がるとし「中学生で将来をイメージすることは難しいと思うが、イメージできないからこそ学習することが必要。学習することで将来がイメージでき、来るべき選択の時に備え

られる。学習と職業の関係は今から意識することが大事」と訴えた。

次に、学習と成果の関係について、努力時間(学習時間)と成長度(成果)は比例しないと「初めのうちは努力した分だけ一定の成果が出るがやがて、努力し続けても成果が向上しない期間が訪れるもの。この期間で諦める人が多いがここにある“成長の壁”を乗り越える(ブレイクスルー)と、大きな成長が得られる。ブレイクスルーは突然やってくるもの、あきらめず努力し続けることが大切である」と説いた。

最後に、アジアをはじめ海外を対象に仕事をする機会が今後ますます増えるとし「富山にも海外との取引・事業を展開している企業はたくさんある。皆さんもアジアで通用する人材になろう」とエールを送り、講義を締めくくった。



<1年2組>島田好美氏 (株島田商店代表取締役)

島田代表はまず「将来やってみたい仕事を決めているか」「働くこと、仕事ってどんなイメージか」と問いかけた。まだ決まっていない生徒が多いことを踏まえ「楽しい面、難しい面など様々なことを想像していると思うが、それら全てがその通りであり、全てを含めて“仕事”である」と強調した。続けて、中学生から高校生になると、なりたい職業は憧れから現実を見据えたものに変わっていくこと、AI(人口知能)が今後さらに進化し、今はあるがなくなる仕事、今は無いが新たな仕事が出てくる時代が目前であることを示し「例えばバス運転手の場合、ただ運転するのではなくお客さんへの特別なおもてなしなど、自分の考えやプラスαの発想を含めると、自身の仕事の幅が増える」と説いた。

次に、男女共同参画や働き方改革に関する法整備が進み、多様性を認め合うことが今後さらに守られるべき時代になるとし「自分のなりたいことに対し、これはダメ

ではないか、こんなことを考えてはいけない、などと考えず、自分の枠組みを外すことを考えてほしい」とアドバイスした。

最後に、なりたい職業を見つけるには①アンテナを拡げること、②思い込み(先入観)に縛られない、③ステージ(自分の居場所)を拡げることが重要であるとし「どんな職業でも大切なのはコミュニケーション。コミュニケーションとは気持ちを伝えることであり、会話などによる情報のキャッチボールがとても重要である。周りの大人たちは見守っている、努力が実る時が必ず訪れる時に向けて、たくさん迷い、悩んでほしい」とエールを送り、講義を締めくくった。



<1年3組>高林幸裕氏 (北電産業株取締役社長)

高林社長ははじめに“どうして働くのか”を考える際、前向きな動機を多く持つことが重要であるとし「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る。前向きな動機に“得意なこと”が加わると、大きな強みになる」とアドバイスした。続けて、好きなことにはThinking(考えることなど)、Communication(伝えることなど)、Leadership(引っ張っていくことなど)などのタイプがあるとし「自分の好きなことは強みの基となる。仕事に対する前向きな動機づけを考える際には自分の能力・特性を見極めることも重要」と訴えた。

次に、就職人気企業ランキングは時代によって変化するが、重要なのは企業名ではなく自分が好きでやりがいがあると思う仕事であるとし「コロナ禍でかつてないほど社会環境が変化しているが、これはチャンスでもある。

ダーウィンは“唯一生き残ることができるのは、変化できる者である”と言った。変化に対応できるよう、まずは世の中が変化していることをしっかりと捉えることが重要」と訴えた。

最後に、社会生活では対人折衝能力や協調性、行動力など様々な能力が必要になるとし「社会人になると、教科書に書いてあることがそのまま出てくることはない。“能力とはやる気”であり、毎日の勉強や部活動などの積み重ねを通じて力がついてくる。皆さんには大きな可能性がある、何事にも積極的にチャレンジしてほしい」とアドバイスし、講義を締めくくった。



<1年4組>土屋 誠氏（日本海ガス㈱取締役社長）

土屋社長はまず「あなたは将来どのような仕事に就きたいですか？」と問いかけた。スポーツ選手になりたいなどの答えに対し「今の時点で決めているのは素晴らしいこと。一方、大半の方はまだ決まっていないと思うが気にしなくてよい。これから、見聞を広めながら考えていけばよい」とアドバイスした。さらに「今後、どんな仕事に就きたいか、からどの会社に入りたいか、へ視点が変わるかもしれないし（就職後は）希望する業務に従事できないかもしれない。大切なのは、どんな仕事に就くかよりも、楽しいなど前向きな気持ちになる・やりがいを感じるなどと“思えるようになること”であり、これが幸せにつながっていく」と説いた。

次に、自社の仕事内容を紹介し“人は何を目標に仕事を頑張っているか”について、東日本大震災の際に15名の社員がガス復旧の応援業務を遂行してくれたことを紹

介し「彼らをはじめ多くの社員が、成し遂げた達成感や使命感を担う責任感、誰かの役に立つという満足感などを働く意義として捉えて、業務を担ってくれている。この気持ちはとても大事」と強調した。

最後に、自分が頑張ってきてうれしいと感じたことを問いかけ、部活や勉強で頑張ったことを挙げた生徒を称賛し「達成感や使命感、満足感は学校生活でも当てはまる。仕事をするとは自分に与えられた役割を果たすこと、必ず人の役に立つことである。将来皆さんが仕事に就いた時に、このような気持ちを感じることができるよう、日々の学校生活を頑張ってください」とエールを送り、講義を締めくくった。



<1年5組>廣田大輔氏（十全化学㈱取締役社長）

廣田社長ははじめに、ローマ教皇謁見風景の写真2枚（2005年、2013年：2013年版は大半の聴衆がスマホ・タブレットを向けている）を提示し「新しい技術や社会情勢がつかないスピードで、より不確実性が高く変化していることを象徴している。これからの時代は、変化に対応する適応力やアジャイルさ（機敏性）がさらに必要となる」と強調した。

次に「何のために働くのだと思いますか」と問いかけた。ニール・ドシ氏（米マッキンゼー・アンド・カンパニー社創設メンバー）らの著書「マッキンゼー流 最高の社風のつくり方」を引用し「働く動機は①楽しみ、②意義、③可能性、④感情的圧力、⑤経済的圧力、⑥惰性に分類される。①②③は直接的な動機でありパフォーマンスレベルを引き上げるが、④⑤⑥は間接的な動機でありパフォーマンスを損ねる。就きたい職業を考える際は、楽しいと思えることをイメージするとよい」とアドバイ

スした。続けて、会社が永続的に存在することが大切で、永続的とは社員やその家族が幸せであることとし「会社が永続的であるためには、社会の変化に合わせて会社も、働く人も変わらなければならない。変わるには勇気が要るが、変わらなると社会のニーズに合わなくなる。変化へ対応するため何をすべきかを考えることは今後さらに求められる」と訴えた。

最後に「皆さんにはどんな夢がありますか」と問いかけた。答えた生徒達を称賛し「諦めたら成長はそこで止まる。自らの限界値を自身で決めてしまう、すなわち自分にキャップをはめるのではなく、大きな夢・目標を持ってチャレンジしてほしい。」とエールを送り、講義を締めくくった。



<1年6組>山崎義明氏（㈱山崎製作所取締役社長）

山崎社長はまず「働く、から連想する言葉は」「働くことはこれからの人生の何割を占めると思うか」と問いかけた。生徒達の答えに対し「皆さんは、働くことには比較的よいイメージを持っている。コロナ禍で、エッセンシャルワーカーと呼ばれる職種の評価が向上しているが、コロナ禍が収まると世の中の評価は相対的に下がる（≒元に戻る）かもしれない。しかし、世情がどうであれエッセンシャルワーカーが担う仕事が無ければ我々の生活は成り立たない。どの仕事にも価値があり、適切に評価することが重要」と訴えた。

次に「働くことの価値は何だと思うか」と問いかけた。生徒達の答えは全て正しいとしたうえで「仕事を通じ社会とつながることは大きな意義がある。お客さんに評価していただけるような良い仕事をして社会に貢献することは大変重要である」と強調した。さらに「お金を稼ぐことと同じくらい重要なのは仕事のやりがい、達成感で

ある。例えば、給料はお客さんの評価への対価なので“給料は社会が払っている”と捉えれば、働く目的が見えてくる」と説いた。

最後に、生徒を対象とした事前アンケートの結果から、仕事で最も得たいこととして、達成感とする回答が報酬の次に多かったこと、約7割が将来の夢を持っていることを紹介し「達成感を得たい気持ちは持ち続けてほしい。夢がまだなくても心配することはなく、長い人生の中で、興味あることなどを考えていけばよい。やりたいことを達成する道筋は一つではなく様々な経験を積む中で自分の進む道を見つけたい」とアドバイスし、講義を締めくくった。



第24回 高岡市立高陵中学校

令和4年2月25日(金)、在田吉宏氏(株アリタ取締役社長)、張田真氏(ハリタ金属株代表取締役)、開章夫氏(昭和建設株代表取締役)が高岡市立高陵中学校において、2学年102名を対象に各クラスで課外授業を行った。

<2年1組>在田吉宏氏

『将来に向けて、今やるべきこと～社会との関わり方を考える～』

在田社長はまず「皆さんが20歳になった時、どんな社会だったらいいと思うか」と問いかけた。19世紀の仏の作家ジュール・ヴェルヌの言葉を引用し「人間が想像できることは人間が必ず実現できる。先人が将来をイメージし、仕事を通じて創ってきた世界が今である」と強調した。続けて「世界はとんでもなく広く、チャンスに溢れている。どう活かすかは皆さん次第」と訴えた。

次に、絵を用いてリフレーミング効果(認識する枠組みや視点を変えると、それまでとは異なった見方になること)を体験させ「固定観念・価値観だけで物事を見るのではなく、立ち止まって見方を変えてみると違った世界が見える。自分の世界とは自分に見えている世界であ

り、換言すれば自分の世界しか見えていない。自分の世界が狭いと勿体ない、自分が感じる世界をどう広げられるか、深堀するかが重要である」と説いた。さらに“頼まれごととは試されごと”であるとし「自分に期待しているからチャンスを与えてくれると思ひ、食らいついてきた。ミスもあったが周囲が助けてくれた。良いことも悪いことも正面から向き合い、思い切ってチャレンジすることが大事」とアドバイスした。

最後に、世界が大きく変わっていくこれからの時代は学ぶことが大変重要であるとし「自ら学ぼうとすること、与えられた情報に対して向き合うことが大切。これらを続けているとチャンスがやってくる」「入ってくる情報を自分の頭のなかで整理し、自分の考えや判断する軸を持つことが重要。皆さんのイメージがこれからの世界を創っていく、様々なことにチャレンジして」とエールを送り、講義を締めくくった。



<2年2組>張田 真氏

『社会人と考える自分の「生き方」』

張田代表はまず、式と答えが初めから設定されているテストは簡単であるとし「人生は式も答えも自分で考える必要があり、組み合わせは無限にある。自分で式を立てて答えを導くことが生き方を考えることであり、そのためには学びが必要である」と説いた。続けて、人はだれもが幸せになりたいとし「人の幸せにルールはないがパターンはある。人は、自分が幸せになるために他人の幸せ寄与するという生き方に幸福感を感じるようできている」「幸せとはなるものではなく気づく・感じるもの。足元の小さな幸せを気づく力・感じる力を磨いてほしい」と訴えた。

次に、遺伝子による人間の潜在意識として、変化は危ないと判断しネガティブな情報はポジティブな情報の5倍強く感じ、人間の脳は口にした言葉に7倍の影響を受けるとし「自然に勉強好きにはなれないが理由を少しで

も理解できれば、勉強の動機を見つけられる。さらに、自分の発する言葉(行動)を変えることにより潜在意識を変えていくことが重要」と訴えた。続けて、学びはよりよく生きるための手段であるとし「なぜ学ぶのか、自分の夢や目的を考えよう。自分が幸せになるには、人の幸せに寄与するには学びが必要。まずは明確な夢や目的を持つ」とアドバイスした。

最後に、やりたいこと、できること、すべきこと、は似て非なるものとし「3つの言葉に当てはめれば本当にすべきことが見えてくる。世界は課題に満ちており地球は皆さんの力を必要としている、人の幸せに寄与する素晴らしい生き方を目指して、自分の足で歩きだしてほしい」とエールを送り、講演を締めくくった。



<2年3組>開 章夫氏 『働くということ』

開代表はまず、生きていくために必要なものは何であるかと思うかと問いかけ「生活のためにお金を稼ぐことは必要だが、それだけではない。働くことの重要な意義は、他の人ができないことを代わりにやるなど誰かの役に立つことである」と説いた。続けて、世の中に様々な仕事があるとしつつ「現在、仕事として認知されていないものを将来、皆さんが作り上げていくかもしれない。共通するのは、誰かに必要とされることが仕事である」と強調した。

次に、建設業について、道路や橋、トンネルなどの社会資本整備に加え、除雪や災害対応などがあること、多くの職種があることなど、生活の基盤づくりを担う仕事であることを紹介した。さらに、建設業においても近年はデジタル化(AIによる重機の遠隔操作や自動運転(研

究・実証実験)等)が進んでいるとし「これからの時代、今思い描いている内容とは違う、予想もできない仕事が出てくるかもしれない。AIのさらなる進化が見込まれる中、働くことについて自分で考え、発想し、いろんなことに挑戦していくことが今後さらに求められる」と訴えた。

最後に、働くことに対する考え方は様々な経験を重ねる中で変わるかもしれないとし「動機が重要ではなく、目標を持って取り組むことが大事。“人のために”がポイント、働く目的・モチベーションを向上させられるよう、目標を明確にし取り組んで欲しい」とアドバイスし、講義を締めくくった。



第25回 富山市立速星中学校

令和4年3月4日(金)、遊道義則氏(株)ユニオンランチ取締役社長が富山市立速星中学校において1学年331名を対象に「夢を持つ、追いかけて、そして、かなえよう～夢と目標と目的と～」と題し課外授業を行った。(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講師は1クラスを対象に講演し、他クラスの生徒は各教室にてオンライン聴講した)

遊道社長ははじめに「あなたの夢は何ですか」と問いかけた。「人に喜ばれる家を建てられる大工になること」と答えた生徒を称賛し「一見同じに思えるが①なれたら(できたら)いい、②なりたい(したい)、③なること(すること)、はそれぞれ①希望、②欲望、③目標を意味する。答えてくれた内容はまさに“目標”である。言葉は想いを表現する力がある」と語りかけた。

次に、人生で大事なこととして決めること、分かち合うこと、正直であることなど8つを挙げ「人生は選択の連続であり、その都度、可能な最善の選択をしている。起きたことや過ぎた時間は決して元に戻らないが、大切なのはそのことにどう“前向きな意味付け”をするかで

ある」と強調した。さらに、積極的に成長することが重要であるとし「成長を妨げるのは①卑下、②現状の満足、③自意識過剰、④傲然である。自分の可能性を信じ、持てるだけの選択肢を持つために何事にも挑戦しよう」とアドバイスした。

最後に、目的と目標の違いについて「目的(誰のために、何のために)は追及するものであり、目標(いつまでに、何を、どのように)は達成するものである。人生の目的を早く見つけると目標は立てやすいが、小さな目標を達成していくうちに目的が見えてくる。夢を見つける秘訣は、常にアンテナを高くし喜怒哀楽の感性を磨くこと。達成することを五感でイメージし、強い意志を持って積極的に挑戦しよう」とエールを送り、講演を締めくくった。



「古代ローマの政治家・セネカの像を観に行くことと、課外授業を通じ、皆さんが夢を持ってくれることが私の夢」と遊道社長

第1回 高岡第一高等学校

令和4年6月7日(火)、山野昌道氏(株チューリップテレビ取締役社長)が高岡第一高等学校にて1学年186名を前に「自分の夢のを見つけ方～高校生活で意識したいこと～」をテーマに課外授業を行った。

山野社長は冒頭、「高校時代は人生で最も元気で、最も無理がきいて、最も頭が良くて、最もバカで、最も思いつきで残る3年間。どう過ごすかは自分で決めるしかない」と述べた。

そして、自身の高校生活の良かった点・反省点を振り返りながら、高校時代に意識しておくこととして、「高校時代の友達は一生涯の友達。高校生活は友達づくりが大切なので、友達になりたい人がいたら積極的に心を開くこと」、「目標が低いと自分で壁を作ってしまうので、目標を高く設定しすること」、「やるべきときに、やるべきことをすること」を挙げた。

続けて、「自身の本当にやりたいことや夢はそう簡単には分からない」と述べ、充実した人生のためには、「考え続け、一日一日を一生懸命に生きるしかない」、「迷ったらやる。一歩踏み出すことで変化が生まれる。いろいろ

ろと悩むこともあるが、行動すれば思ってもみなかったことが起きる可能性がある。やってみないと分からない。面白いことは自分で探そう」と語った。

さらに、自分の夢を見つけるには、「知識を得る」、「大人に聞く」、「やってみる」、「目の前のことに真剣に取り組む」ことが大切であると述べ、「これからいろいろと選択に迷うことがあると思うが、どちらを選んだ方が正しいのかは一生分からない。大事なのはこれを選んでよかったと思えるようにその後の自分の行動で正解していくことである」と説いた。

最後に、充実した高校生活を送るために、「未来は今日一日の積み重ね。充実した未来のために充実した今日を生きよう。みなさんには無限の可能性がある。勉強、スポーツ、芸術、恋などいろんなことに真剣に取り組もう」とエールを送って授業を締めくくった。



第2回 富山市立奥田小学校

令和4年6月15日(水)、島田好美氏(株島田商店代表取締役)が富山市立奥田小学校にて6学年74名を前に「仕事の話～いろんな仕事に出会ってみれば～」をテーマに課外授業を行った。

島田社長は、まず、自身の小学生時代から島田商店の経営者になるまでを振り返りながら、どのようにして自分の将来を考えてきたかを語った。

その経験を通して伝えたいこととして、「夢を持ち続けてほしい。夢が実現するかどうかではなく、夢を持ち、そこに向かっていく過程こそが夢。その中では、たくさん悩むことがあると思う。その悩んだ時間も将来の自分にとっては宝物になる。いろいろな人と出会い、いろいろな体験をし、それを通して、自分に向いている仕事は何かいろいろと試してほしい」と述べ、「大人はみんなで見守っているから不安なく将来を探してほしい」と激

励した。

質疑応答の時間では、多くの児童が手を挙げた。

「自分には夢があるけど、自分はその仕事に向いていないと思う。どうしたらいいですか」という質問に対しては、「例えば、サッカー選手になりたいけど、一流選手になることはなかなか難しい。でも、コーチやユニフォームの開発など、サッカーに関連する仕事はたくさんある。そういったことを探してみたらよいと思う」とアドバイスした。

最後に、「どんな仕事にも働く意義がある。どんな仕事も大事な仕事なのだ」と理解してほしい」と強調して、授業を締めくくった。



第3回 高岡市立牧野中学校

令和4年6月15日(水)、牧田和樹氏(株牧田組取締役社長)が高岡市立牧野中学校にて2学年86名を前に「よりよく生きる」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長は、はじめに、人生に占める就学期間、就労期間の長さを図で示しながら、「働くことは人生の中で大きなウェイトを占める。働くことがいかに大事なことをまず理解してほしい」と訴えた。

続いて、「何のために働くのか」と生徒たちに問いかけながら、「働いて対価としてお金をもらって、それで生活することが正しい生き方。だが、やりたいこととお金を稼げることは同じではない。人生、長い時間働くので、嫌いなことを仕事にしても面白くない。好きなことをやって充実させる。やりたいこととお金を稼げることを重ねることがベストだ」と述べた。

そして、やりたいこととお金を稼ぐことを重ねるには

方法が2つあり、1つは、稼げるようになるまでやりたいことを極めること、もう1つは、お金を得られる仕事の中から、一番やりたいと思うことを見つけることだとし、「やりたいこと、夢を持つことが大切。だが、思うだけでは実現しない。まずは、夢に向かって努力しなければならない。それでも叶いそうになかったら、いろいろな情報を集めること。自分の夢に関連する仕事には他にどんなものがあるのか情報を集めることが大切」と語った。

最後に、「働くことはただお金を稼ぐことではなく、人生を送るうえで成長することと同じ。成長するために働いている。そうやって働くこと人生はよりよいものになっていく。働きながら成長し続けよう！」と熱いメッセージを送り、授業を締めくくった。



第4回 高岡市立戸出中学校

令和4年6月20日(月)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長)が高岡市立戸出中学校にて2学年106名を前に「働くとは」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長は、はじめに、「買いたくても買えないものは何？」と生徒たちに問いかけ、「時間」は皆に平等に与えられたものであり、過ぎた時間は誰にも取り戻せない、何もせずに過ごして無駄にしないよう、時間を大切にしなければならないと説いた。

続けて、長い人生の中で働く時間は、非常に大きなウェイトを占めており、その時間を充実させることが時間を大切にすることにつながると述べた。

次に、人間の本質的な欲求として、自己実現の欲求があり、目的に向かって努力し、その結果が報われたことを自分で認識できた人はうれしいものだと説明し、「働

くうえでも、ただ言われたことをやるのではなく、必ず目的を持ってほしい。目的をもって働き、目的をクリアすることで、できなかったことができるようになり、喜びが生まれ、成長することができる」と語った。

最後に、14歳の挑戦に向けたアドバイスとして、「この会社はどうやって儲けているのか、どうやって社会の役に立っているのかを自分なりに考えてほしい。それによって、そこで働く人の目的が見えてくる。その目的に向かって努力すれば、成長できる。皆さんにとって実り多い時間になることを祈っている。」と激励し、授業を締めくくった。



第5回 富山市立興南中学校

令和4年6月24日(金)、富山市立興南中学校において、「14歳の挑戦」を目前に控えた2学年89名に対して、荒井洋平氏(株)宝来社代表取締役)、尾山謙二郎氏(マンパワーセキュリティ(株)代表取締役)、辻井益雄氏(株)富花取締役会長)の3氏が「働くことの意義と心構え」をテーマに課外授業を行った。

<荒井洋平氏 (株)宝来社 代表取締役>

荒井代表は、冒頭、宝来社はデザインをして工事をする会社だと紹介したうえで、生徒たちに、「デザインって何？」と問いかけた。

教室からは、「見た目」や「設計図」という意見が出た。それに対して、荒井代表は、解決すべき課題や達成したい目的があって、それを解決、達成するために試行錯誤して形にするプロセスがデザインであり、デザインには目的があると述べた。

続いて、「身の回りでデザインされているものを探してみよう」と投げかけた。荒井代表は、文房具、教室の机や椅子、道路、まち全体、目に見えるものほぼすべてがデザインされていると説明し、「目に見えるものがそ

れぞれ、誰がどのような意図でデザインしたのかを考えると、社会を広く見るきっかけになる。また、デザインされたものが、どう作られて、どう

いう経路をたどって自分のところまで来たのかを想像することで、それに携わるいろいろな人々の仕事が見える。社会にどういう仕事があるのかを考えるきっかけにしてほしい」と語った。

終わりに、14歳の挑戦に向けた心構えとして、マナーの大切さについて説明した。そして、「マナーには、自分が相手と同じ文化を共有していることを示して仲間意識を作る効果があり、人が狩猟生活をしていた原始時代には、生存していくうえで必要なものだった。今はそのような時代ではないが、世界中の人とすぐにつながる時代。時代や文化によって、マナーは変わるが、その都度、何が正しいか、相手がどう思うかを自分の頭で考えて、いろんな人と仲間意識をつくってほしい」とアドバイスして、授業を締めくくった。



<尾山謙二郎氏 (マンパワーセキュリティ(株) 代表取締役>

尾山代表は、はじめに、これからの世の中がどう変わっていくか頭に入れてほしいと語りかけた。今までは、ピラミッド型社会で、権限や責任は、ピラミッドの上部にあり、下の人たちには責任がなかったが、これからの時代は、コスモス型になる。中心に皆が共有する目的や目標があり、周りに、それを形にしていこうと、花びら＝人が集まる。この人たちがそれぞれの責任を応分に負いながらミッションを達成していく。コスモス型社会では、皆に責任がかかるので、しっかり生きていかねばならないと説いた。

次に、「作業」と「仕事」の違いについて、作業は、自分が食べるための生業を作ることであり、自分のためにやるもの。一方、仕事は、仕えること、人や社会のためにやるものだと説明したうえで、「これからいろいろな職業に就くと思うが、作業を仕事にできるかどうかは、

皆さんの腹一つ。どんな思いで取り組むかによって、どんな作業も仕事にできる。与えられたものをやるだけでも悪くはないが、その先を見なければ、作業を仕事にしてほしい」と語った。

終わりに、自身の経験をもとに、「後悔」と「反省」の違いについて述べ、「どんどん挑戦してどんどん反省してほしい。やったことは十中八九失敗するが、反省して前に進めばいい。『失敗したことがない』と言う人は挑戦していない人。何かに挑戦すれば必ず失敗するが、だからこそ、次の術を学び始められる。やろうと決めたことを必ずやって後悔のない人生を送ってほしい。そこから道は拓ける。」と激励し、授業を締めくくった。



<辻井益雄氏 (株)富花 取締役会長>

辻井会長は、はじめに、「梅檀は双葉より芳し」のことわざを引き、香木の梅檀は、双葉が少し出た頃から良い香りがする。人も同じで、若い頃から、皆どこかに必ずいいところがある。それは人によって違うが、それをどう伸ばしていくかが大事だと生徒に語りかけた。

次に、14歳の挑戦に向けての心構えとして、挨拶や服装、ノックのしかたなど、様々なマナーを紹介しながら、マナーは、「知らないから」で通すこともできるが、マナーを知っている人にとっては、マナー違反は不快なものなので、マナーは大切にしなければならぬと説いた。

最後に、辻井会長は、自身の「18歳の挑戦」として、高校を出た後、大学には行かず、東京日本橋の花慶商店に奉公に出たこと、その後、日本にはまだ「フラワーデザイン」という言葉が入っていなかった時代に、アメリ

カ・シカゴの学校でフラワーデザインを学んだこと、アメリカの次には、パリの花屋で働いて勉強したことなど、自身の挑戦のエピソードを語り、挑戦することの大切さを生徒たちに伝えた。



講義の締めくくりには、辻井会長は、「『14歳の挑戦』として、花束をつくってみよう」と、持ち込んだバラの花で、生徒2名に花束をつくらせた。生徒たちは、初めての花束づくりに戸惑いながらも、辻井会長の助言の下、大きな花束を完成させた。花束は、誕生日が近い生徒にプレゼントされることになり、教室中が盛り上がった。

第6回 舟橋村立舟橋中学校

令和4年6月24日(金)、伊東潤一郎氏(アイティオ(株)取締役社長)が舟橋村立舟橋中学校にて2学年40名を前に「働くとは」をテーマに課外授業を行った。

伊東社長は、はじめに、「将来何になりたいか」を生徒たちに問いかけた。そして、「将来なりたいものがまだ決まっていない人も多いと思うが、勉強して様々なことを学ぶことで、人生の選択肢を増やすことができる。勉強した人だけがいろいろな道を選ぶことができる。」
「いろいろなことに興味を持ち、いろいろな話を聞くことで、より高いところからものごとを見通す力をつけることができる。」と勉強すること、好奇心を持つことの大切さを説いた。

次に、自社や他社の企業理念を紹介しながら、「会社」は、社会を豊かにしたり、人を幸せにするために存在していると説明し、「将来やってみたい仕事を考えるとき

には、その仕事は誰をどう幸せにできる仕事なのかを考えることが大切。」と訴えた。

最後に、自身が人生の中で一番大事にしていることとして、次の3つを紹介した。①成功の反対は失敗ではない、何もしないことである。何かをやってみて、失敗して、それを直すからこそ初めて成功がある。何もやらない人には成功も失敗もない。②人生には与えたものが返ってくるという目に見えない法則がある。人を喜ばせてあげると、必ずどこかで自分に返ってくる。③与えられた課題は「先送り」できるが「逃げ切る」ことはできない。

そして、「これらの意味に早く気づくことでより幸せな人生が送れる。」と締めくくり、授業を終えた。



第7回 富山県立富山商業高等学校

令和4年7月13日(水)、富山県立富山商業高等学校において3学年273名に対して、石橋隆二氏(株)石橋代表取締役)、市森友明氏(株)新日本コンサルタント取締役社長)、碓井一平氏(Labore(株)代表取締役)、福崎秀樹氏(株)フクール代表取締役)、牧真奈美氏(株)クルサー代表取締役)、森弘吉氏(株)エムダイヤ代表取締役)、遊道義則氏(株)ユニオンランチ取締役社長)の7氏が「社会貢献としての仕事、社会人にとって必要な能力・資質」をテーマに課外授業を行った。

<石橋 隆二 氏 (株)石橋代表取締役>

石橋代表は、まず、「社会貢献としての仕事」について、社会貢献とは社会のためになるということ。どんな仕事でも、今世の中にあるということは、社会から必要とされていることであり、社会のためになっていると述べた。

そして、生徒たちに何のために働くかを尋ねた。「生活のため」という声が上がったが、石橋代表は、「生活のためだけにしょうがなく働くと、働いている時間が辛い時間になってしまう。何のために働くのかを考えてほしい」と投げかけた。

石橋代表自身も昔は自分の生活のため、お金のために働くのだと考えていたが、それでは社員がついて来なかった。そのような中、盛和塾の稲盛和夫氏からの「嘘で

もいいから社員の幸せのためだと自分に言い聞かせよ、3年経つまで我慢して自分に言い聞かせよ」との助言に従ったところ、いつの間にか「自分のため」という思いが消え、本心から「社員の幸せのため」と思えるようになり、結果として、社員が働くことに前向きになり、会社の利益が上がったと語った。

次に、「仕事や人生の成功は、『能力×熱意×考え方』の3つの掛け算で決まる。」との稲盛氏の言葉を紹介し、「能力や熱意はプラスしかないが、考え方にはマイナスがある。能力や熱意があっても、考え方がマイナスだと成功しない。考え方はプラス1でもいい。プラス1から2にどうやって考え方を変えるかが大事で、それを分かっていたら、人生や仕事の成功に結び付く。」と説いた。

最後に、富商の先輩として、「富商生には気骨がある。富商の指導は厳しいが、この厳しさは社会に出た時に必ず役に立つ素晴らしい財産だと思って、これからの人生をスタートしてほしい」とエールを送り、授業を締めくくった。



<市森 友明 氏 (株新日本コンサルタント取締役社長)>

市森社長は、冒頭、仕事とは社会価値と経済価値の両方を生み出す行為であると述べた。そして、社会価値とは、社会に必要であること、社会を良くすることであり、経済価値とは、仕事や生活を続けるためのお金を得ることであるとしたうえで、「社会に出る際に、自分が就く仕事、自分が入る会社がどのような社会価値を生み出しているのかをよく考えてほしい」と説いた。

続けて、地域社会の課題を解決するような社会価値が高い仕事は経済価値も高く、回るお金の量とスピードが増える。回るお金の量とスピードが増えると、地域社会が活性化する。地域社会が活性化すると、域外からの投資が増え、地域がさらに活性化し、定住人口が増えるという好循環が生まれると述べた。

次に、働くうえで学習が必要な理由を2つ挙げた。1つ目は、「仕事を実践する上で、最低限必要な学力や知識を身に付けるため」とし、2つ目は、「よく学習した人と、普通に学習をした人とは、仕事の選択の幅が違

う。学習をするかしないかは個人の自由だが、学習することで将来がイメージできて、来るべき選択の時に備えることができる。社会価値の高い仕事は社会貢献の技術や技能が必要だから、ベースとしてある程度の学習が必要。天才になる必要はないが、努力が必要」と述べた。

最後に、努力の時間と成長の関係について、「努力をすると最初に少し成長するが、その後ずっと停滞期があり、成長の壁にぶつかる。それでも努力し続け、成長の壁を越える、ブレイクスルーすると、大きく成長できる。成長の壁を越えるまで努力できるかが重要。ブレイクスルーはいつやってくるかはわからない。突然やってくるということを覚えていると、成長の実感がない停滞期にあっても諦めずに努力し続けることができるこれを覚えておいてほしい」と強調し、授業を締めくくった。



<碓井 一平 氏 Labore (株)代表取締役>

碓井代表は、はじめに、自身の経歴を紹介した。碓井代表は、大学卒業後、親族の会社に入社し、その後社長になった。給料面の待遇は非常に良かったが、仕事の内容に興味を持てなかったため、全てを捨てて起業した。報酬の面では親族の会社の社長時代の方が圧倒的に良かったが、好きな仕事をしている今の方が充実しており、起業したことを全く後悔していないと語った。

次に、日本は、他の先進国と比べて、開業率が低いという事実を紹介したうえで、その原因は、「起業には失敗、リスクがつきものだが、日本には失敗をたたき、成功してもリスペクトしないという特有の風土がある。チャレンジした先には必ず失敗か成功が待っているが、成功したら嫌味を言われ、失敗したら叩かれる。これは最悪で、これだと誰もチャレンジしない。是非変えてほしい」と述べた。

続いて、ムーブメントの起こし方を説明した。ムーブメントの発端には、周りからは奇異と思われる行動をとる最初の一人がいるが、それだけではムーブメントにつ

ながらない。最初の一人に対し、僕も手伝うよと手を差し伸べる人「フォロワー」が必要だと語った。

そして、自身が起業した際の最大のフォロワーは妻だとし、親族の会社を辞める際、「収入は？生活は？子どもたちはどうするの？」とは一言も言わず、ニコニコして「これから何する？」と後押ししてくれたと起業時のエピソードを紹介した。

最後に、「起業家を目指す人は出てくるが、フォロワーを目指す人はものすごく少ないし、実際にフォロワーになれる人はさらに少ない。今、起業家を目指しましょうと盛んに言われている。起業家は確かに面白いし、やりがいがある。皆さんには、起業家は面白そうだと思ってもらいたいが、そうじゃなくても、フォロワーになってほしい。」と熱く語り、講義を締めくくった。



<福崎 秀樹 氏 (株)フクール代表取締役>

福崎代表は、冒頭、自己紹介の中で、江戸時代の儒学者山鹿素行の名言「常の勝敗は現在なり」を座右の銘として紹介し、「人は今しか生きられず、今の一瞬一瞬が自分の未来を作っていく。今をどう生きるかが大切だ」と述べた。

次に、異常気象による自然災害、新型コロナ、ロシアのウクライナ侵攻などを挙げたうえで、「私たちが今生きている時代は、『確実なことは何もない』ということだけが確実な、不確実な時代。何が起きてもおかしくない時代であることを認識してほしい」と強調した。

続いて、科学技術が指数関数的に進歩し、年々そのスピードが速くなっていることを説明したうえで、「2030年には今ある仕事の半分はコンピュータ・AIで代替できてしまう」「2011年度に小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就く」という話を紹介した。

そして、今までの時代は、言われたことを波風立てずにやるのが求められたが、これからの時代で大切な

は、知識や技術の有無ではなく、人間だけが持っている人間的な能力だとし、「どれだけ人に優しくできるか、どれだけ好奇心を持って探求できるかが大事。そのためには、読書して多くの言葉に触れ、考える能力を磨くこと、人とたくさん関わり合い、ぶつかり合って強さと優しさを身に付けることが必要」と説いた。

最後に、「『おいしいものを食べる』と『おいしく食べる』は違う。『おいしく食べる』は自分の心次第。それと同じで、将来どんな仕事に就きたいかいろいろと考えるかもしれないが、その時に何をするか、何を思うかは自分で決められる。人生は自在。自分が今できることに最善を尽くすことだけが、未来を切り開いていくことにつながる。そして、みんながそういう生き方をすることで社会が良くなっていく。100年後の子どもたちに輝く日本を残したい」と熱く語り授業を締めくくった。



<牧 真奈美氏 (株)クルサー代表取締役>

牧代表は、はじめに、人は社会の中で生きていく限りは、一人では生きられず、社会の一員として誰かの役に立つことが必要と述べた。そして、人生で多くの時間を仕事に費やすことになるが、その時間を文句を言いながら過ごすか、夢や目標を追いかけてワクワクしながら過ごすかは自分の考え次第で変わってくると語った。

それから、好きなことと得意なことのどちらが仕事に向いているだろうかと問いかけた。牧代表は親の勧めで選んだ看護師の仕事は、最初は自分に合わないと思っていましたが、成功体験をしてやりがいを感じるようになり、たくさんの患者から「ありがとう」とお礼を言われるうちにこんないい仕事はないと感じるようになったことを紹介し、「自分に向いてないと思って、やってみたら面白いこともある。これからどう変わるかは自分次第。人は変わりたいと思ったときから変わる。自分の可能性を信じ、自分の可能性を潰さないで欲しい。」と述べた。

次に、人生の主役は自分だとし、「自分の生き方は納

得のいくまで考えてみるのが大切」「自分の良さには気づきにくい、過去の自分より今の自分が成長していたら自分を褒めて自己肯定感を高めたい。すると多少の失敗にもめげずに前向きに生きられる」と述べた。

続いて、働くときに必要な能力として、コミュニケーション能力を挙げ、「相手と自分の価値観は違うので、相手に伝わる言葉で伝えることが大切」「人はその人自身が変わりたいと思ったときにしか変わらないので、他人を変えることはできない。相手を変えようとするのではなく、自分の受けとめ方を変えると人間関係のストレスが減る。」とアドバイスした。

最後に、「皆さんはまだまだ若い。無限の可能性に溢れている。自分を大切にして、自分らしく生きてほしい」とエールを送り授業を締めくくった。



<森 弘吉 氏 (株エムダイヤ代表取締役)>

森代表は、はじめに、海外出張先で目にした、日本ではあり得ない光景の数々を写真で紹介しながら、「自分の中の常識は世界の常識と違うかもしれないと意識して欲しい。これから社会に出ていくときに、他人や他国の常識や考え方を互いに認め合うことが、とても大切になる」と説いた。

次に、「究極の幸せ」と「素晴らしい人」とはどのようなものを語った。まず、「究極の幸せ」とは、「人に褒められること、人の役に立つこと、人に必要とされること、そして人に愛されること」である。自分がどう幸せかではなく、相手がどう幸せになってくれるか、相手の役に立つことが、究極の幸せであるとした。

それから、「素晴らしい人」とは、「功は人に譲れ、恩は胸に刻め、そして憎は水に流せ」ができる人。自分が成功しても、手柄を自分のものにはせず、お蔭様でという気持ちで人に感謝する。誰かに何かをしてもらったときは、恩を胸に刻んで、感謝の気持ちを持つ。時には腹

を立てて憎むこともあるが、なるべく水に流す、こんな人になりたいと語った。

続けて、自身が日頃から心掛けている考え方をいくつか紹介した。そのうちの1つが、信頼関係を築くこと。「信用」と「信頼」は似た言葉だが、「信用」は過去の実績に基づいて信じること、「信頼」は未来に向けて根拠なく頼ることだと自身は定義しているとしたうえで、「信用よりも信頼が大事。過去の実績で信用を得て、信頼される人になってほしい」と述べた。

最後に、「成功の反対は失敗ではなく、何もやらないこと。失敗の先に成功がある」「知識と経験の両輪で知恵が生まれる。この知恵を最大限生かし、生涯学びだと考え、素直な心で臨んでほしい」と激励し、授業を締めくくった。



<遊道 義則 氏 (株ユニオンランチ取締役社長)>

遊道社長は、はじめに、言葉の大切さについて説いた。フランス・ペーコンの言葉、「われわれは『自分が言葉を統御している』と考えているが、しかし、われわれが『言葉によって支配され統御されている』のである」を紹介したうえで、「『将来何になりたいか』と聞かれたら、『〇〇になれるといい』という答え方と『〇〇になる』という答え方があるが、後者のように前向きに言い切ることで、目標の実現に近づくことができる。この先進路を決めるとき、いろいろと人に相談することもあるだろうが、最後は自分で決めることになる。『なりたい』ではなく、『なる』と言い切ってほしい」と語った。

次に、生きるということ、人生とは何か?について自身の考えを2つ述べた。

1つ目は、人生は選択の連続であるとし、「この先、いろいろなことを選択しなければならず、選択に迷うかもしれないが、失敗を恐れる必要はない。振り返ってみて、『こっちを選んで良かった』と良い意味づけができるかが重要。そのように考えるよう習慣づける努力をし

なければならない。」と述べた。

2つ目として、「自分の一度きりの人生なので、積極的に変化(成長)すべき。」と述べた。そして、自分を卑下せず自分の可能性を信じ、今の自分に満足することなく、様々なことにチャレンジすることで成長できると語った。

そして、人生において一番大事なことは、「やる」ことだと説いた。必要なことは、「すぐにやる、何でもやる、できるまでやる」。やらないとせっかくの機会を逃してしまうし、やったことから得られる経験は大きいと語った。

最後に、「自分の人生、自分が自分の人生に何をしてあげられるかを考える。誰かが、運が自分に何かをしてくれるわけではない。自分自身しか頼りになる人はいないと腹をくくってほしい」と激励して授業を終えた。



第8回 高岡市立高陵中学校

令和4年9月2日(金)、高岡市立高陵中学校において、「14歳の挑戦」を目前に控えた2学年85名に対して、稲田祐治氏(加越能バス株相談役)、張田真氏(ハリタ金属株代表取締役)、開章夫氏(昭和建設株代表取締役)の3氏が、「働くことの意義、社会人としての心構え」をテーマに課外授業を行った。

<稲田 祐治 氏 加越能バス株相談役>

稲田相談役ははじめに、中学校時代を振り返り、将来の目標もなく、何となく勉強した結果、高校受験に失敗して浪人した。この経験が人生の中で一番辛かったが、この失敗から、将来自分がやりたいことを描きながら高校生活を送るようになったと語り、生徒たちに目標を持って努力することの大切さを説いた。そして、「人生はいいことばかりではない。悪いこともあるが、それを修正していくのは自分の力。自分の力と、支えてくれる家族の力を頼りにしながら、人生を送ってほしい」と語った。

次に、「働くことの意義」を生徒たちに問いかけ、「生

活のためにはお金が必要だが、お金のためだけに働いては楽しくない。大切なのは、自分がやりたいことをやりながら、自分で「満足だな」と思えるような仕事に就いて、楽しい家庭をつくり生活していくこと」と述べた。

最後に、「14歳の挑戦を通して今まで見えなかった会社の裏側が見える。働くことの素晴らしさを知ると同時に、大変さ、汚い部分も知ることになるが、これは全て社会のできごとであって、皆さんがいずれ出会うかもしれないこと。14歳の挑戦でいろんなことを感じ取ることができたら、その分だけ成長し、社会に一步近づいたことになる。自分事として、将来に備えて、あまり緊張せずに14歳の挑戦に挑んでほしい」とエールを送り授業を締めくくった。



<張田 真 氏 ハリタ金属㈱代表取締役>

張田代表ははじめに、「働く意義」は、他人が決めるものではなく、自分自身が人生の中で決めていくべきことだとしたうえで、自身の考える働く意義は、仕事を通じて、自分が幸せになり、そして人を幸せにしていくことだと紹介した。

そして「幸せになるには知識と技術が必要」とし、脳科学的な視点から、幸せになる方法を語った。

人間は本能で「変化は危険」と認識する。これは人類が誕生した頃からの本能。だが、ダーウィンの進化論では、唯一生き残ることができるのは変化をする生き物である。ではどうやって自分を変化させるか。それは言葉の力。人間は、目で見たり、人の話を聞いたりした入力情報よりも、自分の言葉で出力した情報が脳に7倍の影響を持つ。プラスの言葉を発すればその影響を受けて、

脳はプラス思考になっていく。自分の言葉遣いに気を付けることが大切である、と説いた。

また、日本は豊かなのに幸せを感じる人ができない人が多い。幸せはなるものではなく、感じるもの。日々の日常の中に小さな幸せを感じられるかどうか。これを知らずに延々と幸せを探して歩き回る人たちもいる。そうならないよう小さな幸せを感じる技術を身につけてもらいたいと述べた。

最後に、「将来社会人となった皆さんと仕事を通じて、共に人の幸せに寄与できることを楽しみにしている」と熱く語り授業を締めくくった。



<開 章夫 氏 昭和建設㈱代表取締役>

開代表ははじめに、働くこととは、人ができないことを自分が代わりにやってあげることであり、「人のため」が基本。人に必要とされるサービスや知識を提供し、対価としてお金をもらうこととした。

次に、やりたい仕事、目標の見つけ方について、井上靖氏の言葉「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る」を引用し、「文句を言う人ほど、努力をしていない人が多い。やりたいことを黙々とやっている人は文句を言う人が少なく、成功している。やりたいことを見つかるまでには時間がかかるが、やりたいことがわからなければいろんなことに挑戦してみるとよい。様々な人に会うことで、新しいことに興味を持ったり、人に教えてもらって初めて知る世界がある。皆さんは挑戦して失敗しても、やり直すことができる。いろんなことに挑戦

してほしい。」と語った。

続いて、どんな仕事に就こうと必要な能力がコミュニケーション能力であると、「自分で思っていることを人に伝えるのは意外と難しい。自分が伝えているつもりでも、実際に相手に伝わっているのが3割くらいと言われている。相手に自分の思っていることを伝える力を今のうちから大切にしてほしい」と述べた。

最後に、「皆さんは将来いろいろな仕事をすると思うが、人のために役に立つ人になってほしい」と強調し授業を締めくくった。



第9回 富山市立山室中学校

令和4年9月7日(水)、牧田和樹氏(㈱牧田組取締役社長)が富山市立山室中学校にて2学年188名を前に「よりよく生きる」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長ははじめに、貨幣経済の中で活動している以上、お金がないと生活できず、お金を手に入れる手段は、①相手を見つけ、②相手の役に立つことをして対価を得る、これが世の中の原則であると説いた。

続けて、「会社もこれと同じで、顧客がいて、顧客に役立つサービスを提供しないと存続できない。14歳の挑戦で訪問する会社でもこの原則が成り立っているのだから、会社の客は誰で、客にどう役に立っているかを見てほしい。まだ将来やりたい仕事かわからないかもしれないが、この原則を見る目を養っておけば、就職先を考える時に役に立つ。」と語った。

次に、14歳の挑戦の心構えとして、挨拶の大切さを説

いた。「人の第一印象は良い・悪いの2つしかなく、絶対に相手に気に入られるコツは挨拶。挨拶は相手を認めること。14歳の挑戦時には相手にきちんと挨拶することで好感度が上がる。好感度が上がるといろいろと教えてもらえる。逆に、自分のことしか考えないと相手の印象が悪くなってしまいます。人間には動物と違って心がある。人間社会の中でよりよく生きるためにはわがままを抑えて、相手のことを認めて思いやる必要がある。」と述べた。

最後に、「14歳の挑戦にあたっては、受入先と調整をしてくれた先生、そして受入先の会社の厚意があってこそ成り立っていることを心に刻み、実りある挑戦してほしい」とエールを送り授業を締めくくった。



第10回 富山県立雄峰高等学校

令和4年9月14日(水)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長が富山県立雄峰高等学校にて3年次生約110名を前に「よりよく生きる」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長ははじめに、「生きていくためにはお金が必要で、そのためには働かなければならない。今まで生きてきた何倍もの時間働かなければならない。これから働くということはイコール、未来をつくるということである」と語った。

次に、働き方には正規雇用と非正規雇用の2つがあると説明したうえで、「アルバイトで生きていけると思うかもしれないが、アルバイトのスキルだけで60歳まで働くことは難しい。正規雇用だと、会社は長く働いてもらうため人材育成を行う。様々な仕事を経験し、スキルを身に付けたら、それに伴い給料が上がる。アルバイトではなく、正規雇用で働くことが一番未来をつくりやすい」

と就職試験を控える生徒たちに正規雇用の利点を語った。

そして、「過去と現在は変えられないが、いい結果が出る原因を今つくれば、未来は良くなる。

君たちの未来は君たち自身がつくる。苦手なことに挑戦し、できるように努力する、頑張る気持ちを持つことが未来を変える第一歩だ」と説いた。

最後に、働くうえでの人間関係の大切さ説明し、「社会に出ると人間関係が大きく広がる。人間関係を築くには、自分のわがままを抑え、相手に「思いやり」を持って接することが基本。思いやりを持って人間関係をつくってほしい。そうすることで明るい未来が拓けると熱く語って授業を締めくくった。



第11回 富山県立魚津高等学校

令和4年9月24日(土)、遊道義則氏(株)ユニオンランチ取締役社長が富山県立魚津高等学校にて1学年161名を前に「生きるということ～人生って何なんだろう～」をテーマに課外授業を行った。

遊道社長ははじめに、「言葉」の不思議さ・大切さについて触れ、人間は自分の言葉を統御しているつもりで、実は言葉に統御されているのだと説明し、例えば、将来の目標を話すときに「〇〇になれば」や「〇〇になりたい」ではなく、「〇〇になる」と言い切るなど、意図的に言葉を選んで発することが大切であると説いた。

次に、選択の連続である人生において、起こってしまった出来事や過ぎてしまった時間は絶対に元には戻らないが、そのことをずっと引きずっていても辛くなってしまっただけなので、前向きな「意味付け」をする習慣を努力によって身に付けることが重要であると語った。

続けて、人間は変化を嫌うが、その抵抗を恐れているのは成長できない、積極的に変化(成長)することが大切であると説いたうえで、「卑下、現状の満足、自意識過剰、傲然さは自身の成長を妨げてしまうので、自分の可能性を信じ、今の自分に満足せずにいろいろな事にトライをして、いろいろな選択肢をつくってほしい。経験から大きなものを得られるので、必要なことは何事でもすぐに「やる」、言い訳や先送りをせずに、できるまで「やる」べき」と行動することの大切さを強調した。

最後に、「自分の人生は誰も何もしてくれない。自分が自分の人生をどう生きるかが大事。腹をくくって、自分の人生を生きて欲しい」と激励し授業を終えた。



第12回 富山県立小杉高等学校

令和4年10月12日(水)、浦山哲郎氏(学)浦山学園理事長が富山県立小杉高等学校にて1学年159名を前に「Crossroads」をテーマに課外授業を行った。

浦山理事長は、はじめに、社会に出るために必要な能力として、基礎学力などの認知能力のほかに、思考力・表現力・判断力などの非認知能力を身に付けることの重要性を説いた。そして、自身のキャリアにおける人生の岐路 Crossroads を紹介しながら、どのようにして非認知能力を高めていくかを語った。

浦山理事長の1回目の岐路は学生時代の米国留学。きっかけは、外国人客の多いアルバイト先で、外国人客から日本に関する様々な質問があり、なぜ外国人がこれほど日本に興味を持つのか疑問に思ったことだった。次に訪れた2回目の岐路、就職時には、日本を世界に紹介したいという夢を持ってホテル業界に就職し、国際部門で勤務した。その後、アメリカの先進的な人材育成に触れ

た経験から、人材育成に携わることを志すようになり、会社を退職し浦山学園に入職したのが3回目の岐路。岐路に立った時、夢や希望を持っていたからこそ日々努力をすることができたと言った。

そして、様々な Crossroads を経て、人々の出会いから生まれた感謝や思いやりの気持ちが、夢や希望に繋がり、夢や希望を持つことで、思考力・表現力・判断力が培われていったと語った。

最後に、福沢諭吉の言葉「上手な役者が乞食になることもあれば、大根役者が殿様になることもある。とかく、あまり人生を重く見ず、捨て身になって何事も一心になすべし」を紹介し、「今この時にできる全力を果たしてほしい」とエールを送り授業を締めくくった。



第13回 高岡市立志貴野中学校

令和4年11月8日(火)、高岡市立志貴野中学校において、2学年173名に対して、在田吉宏氏(株アリタ取締役社長)、稲田祐治氏(加越能バス(株)相談役)、尾山謙二郎氏(マンパワーセキュリティ(株)代表取締役)、土屋誠氏(日本海ガス(株)取締役社長)、張田真氏(ハリタ金属(株)代表取締役)の5氏が、「将来に向けて、今やるべきこと」をテーマに課外授業を行った。

<在田 吉宏氏 (株アリタ取締役社長)>

在田社長は、はじめに、「仕事は社会との接点の1つである」とし、仕事を通じて社会貢献し、仕事を通じて社会から色々なことを学ぶことができると述べた。

そして、社会との接点は、仕事だけではなく、学校や地域や経済団体など様々なものがあり、接点を多く持ち、様々な社会と繋がることで多くの良い経験ができるので社会との接点をできるだけ早く、たくさん持つべきだと説いた。

次に、「だまし絵」をいくつか紹介しながら、物事を1つの視点でとらえずに角度を変えて見ることで全く違うものが見えてくる、1つの視点だけで見てはもったいないと語った。

<稲田 祐治氏 加越能バス(株)相談役>

稲田相談役は、はじめに、自己紹介として、自身の半生を振り返った。

何の目標もなく勉強にも身が入らなかった中学時代。結果として高校受験に失敗したという苦い経験。自動車に興味を持ち、将来のやりたい仕事、自分の生き方を思い描きながら勉強した高校・大学時代。就職先は、地元富山で働きたいとの思いから富山地方鉄道を選択。ここでは、3K職場、慣れない専門用語、飛び交うぶっさらぼうな言葉など、辛いこともあったが、共に働く同僚と仲間意識が芽生え、同じ目標に向かって一緒になって働くことの大切さを学ぶことができた。

そして、人生浮き沈みがあったが、目標をつかめず苦労したことと、就職してからの貴重な現場体験があったからこそ今の自分があると語った。

次に、コミュニケーション力、行動力、積極性など、

<尾山 謙二郎氏 マンパワーセキュリティ(株)代表取締役>

尾山社長は、はじめに、トップの人間が権限と責任を持ち、下の人間は権限も責任もない「ピラミッド型」社会から、1つのミッションに個々の人間が責任を持って主体的に関わる「コスモス型」社会に変化し、自己責任が強くなって回る時代になったと語った。

続けて、そのような時代には、物事を判断する「ものさし」を心の中に持っておかねばならず、そのものさしは、損得でも正誤でもなく、善悪のものさしを持つべき。善悪で物事を判断すると、時には損をすることもあるが、善悪はぶれない基準なので、人の信頼を得ることができると述べた。

次に、「何のために働くか」を生徒たちに問いかけ、働く目的は順番が大切だと説いた。そして、「まずは自分の欲望を満たすために働き、次に、家族など守るべきもののために働き、最後に社会のために働いてほしい。

続けて、「様々なことに向き合い、チャレンジすることで自分の世界を広げることができる。向き合うこととは、自らが興味を持って、考え、知ろうとする努力をすること。努力に結果が必ず伴うわけではないが、努力することで成長することができる。また、物事に向き合うことで、自然と自分の考え方ができてくるので、周りに流されて何となく過ごすのではなく、自分の考えで物事と向き合って行動してほしい」と述べた。

最後に、「世界はどんどん変化し、広がっている。広がる世界をすべて理解することは無理だが、理解しようと向き合って努力することで、成長することができる。社会との接点を増やし、接点を深くすることでチャンスが生まれる。そのチャンスを生かし、豊かな想像力で豊かな世界をつくってほしい」と強調して授業を締めくくった。



社会人に求められる能力をいくつか挙げたうえで、「最も大切な能力は、誠実さ。嘘をついたり隠し事をしたりせず、周りから信頼されることが人として大切である」と説いた。

最後に、「将来の目標をしっかりと持ち、今何をすべきか考えてほしい。14歳の挑戦によって将来についていろいろと感じることができたなら、皆さんはその分成長し、社会に近づいたことと思う。私は昨年度社長を退いたが、富山県の鉄道路線維持の課題に取り組むために、自分の経験を活かして会社を立ち上げ、今、「66歳の挑戦」をしている。皆で共に頑張っていこう」と熱く語り授業を締めくくった。



人間は自分をなくすことはできない。自分を大事にできない人は他人を大事にすることはできない。最初から社会のために働こうとすると長続きしない。順番を間違えないでほしい」と述べた。

最後に、自身は多くの挫折と失敗を繰り返してきたと語り、「挫折や失敗は挑戦の証。挫折や失敗には必ず意味があり、苦しくても真っすぐに向き合い、自分に何が足りなかったかを考え、学ぶことで苦しみから抜け出し、成長できる。周囲に責任をなすりつけては苦しみから抜け出せない。挫折・失敗はチャンスだと思って正対してほしい」とエールを送り授業を締めくくった。



<土屋 誠氏 日本海ガス(株)取締役社長>

土屋社長は、はじめに、「将来就きたい仕事」を生徒たちに問いかけた。そして、今は「やりたい仕事の内容」を思い浮かべるが、実際に就職先を考える時には、「どの会社に入るか」という選択肢が変わる。すべての人が希望する会社に就職できるわけではないし、希望の会社に入っても、やりたい仕事ができるわけではない。自分が思っていたのと違う仕事をしなければならないことがあることを覚えていてほしいと述べた。

次に、日本海ガスの仕事を紹介しながら、人は何を目標に働くのかを語った。

1つ目は、自分の頑張りが周囲に認められること。

2つ目は、お客様から「ありがとう」と感謝されること。

3つ目は、大きな仕事やプロジェクトに個人、チーム、会社全体で取り組んでそれを達成した時の達成感。

4つ目は、会社の使命を担っているという使命感・責任感。

5つ目は、日々の自分の頑張りが誰かの役に立っていると感じる満足感。

そして、これら5つは、働いて初めて感じるものではなく、学校生活や家庭生活の中でも感じることができ、その時に、「こういう気持ちで、将来働いた時に、仕事を頑張ろうと思うきっかけになるのだな」と感じてほしいと語った。

最後に、東日本大震災直後、供給停止したガスの復旧のために被災地に応援社員を派遣し、現地の人々から感謝されたエピソードを語り、「将来皆さんが働くときには、自分の仕事で誰かの役に立っているという満足感をぜひ感じてもらいたい」と強調し、授業を締めくくった。



<張田 真氏 ハリタ金属(株)代表取締役>

張田代表は、冒頭、今日は生き方を考える上で重要な「幸せ」について学び、生き方を考える機会にしたいと述べた。そして、幸せとは何かを考えるには、人体の仕組みの「なぜ？」を理解せねばならないと説いた。

まず、人類500万年の歴史の中で、250年前の産業革命以降、科学技術の発展により社会は激変した。その一方で生物の進化は遅く、人間の本能は変わっていない。人間は本能で「変化は危険」と感じるが、安全な現代社会ではこの安全機能は不要。何かにチャレンジすることは「変化」であるため、本能が「変わるな」という方向に働く。人間は自らの力では変われないようにできていると知っておくことが重要であると述べた。

また、人間の脳は入力した情報・思い・イメージよりも出力した情報・言葉・動作に7倍の影響を受けるので、プラスの言葉、動作を発して、脳をプラス思考にしてほ

しいと語った。

最後に、「幸せはなるものではなく、感じるもの。小さなことに幸せを感じるトレーニングをすることが幸せになる最短距離。」「人の役に立っていると感じると、オキシトシンという幸せホルモンが出る。このホルモンは持続性が長いので幸せを長く感じられる。オキシトシンが働くような人生、人や社会に貢献する生き方が幸福を感じさせる。勉強することは大変だが、将来的には人の役に立つことに繋がっていく。地球温暖化など地球は課題に満ちており、皆さんの力が必要。地球に生きる1人の人間として将来皆さんに活躍してもらいたい」とエールを送り授業を締めくくった。



第14回 富山市立蜷川小学校

令和4年12月8日(木)、牧田和樹氏(株)牧田組社長が富山市立蜷川小学校にて6年生131名を前に「なりたい自分になるう」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長は、はじめに、「人は今までできなかったことができるようになった時にうれしいと感じる。自分の成長を実感することで幸せを感じるができる」と述べた。

そして、「成長を実感するには、人に評価されることが必要。人の役に立って、評価されて、成長を実感して、幸せになる。これは、社会に出ても同じ。会社は、お客様の役に立つことで評価され、お客様がさらに増えて儲かる。会社員は、お客様の役に立つことで会社から評価されて給料が上がる。社会全体が同じ仕組みで動いている」と語った。

次に、「将来何かをやるうという思いがあっても、結

果を出せなければやらなかったことと同じ。結果を出す力を身につけるために、今皆は学校で勉強している。将来人の役に立つために必要なので、学校での勉強を疎かにしないでほしい」と勉強の大切さを説いた。

質疑の時間では、多くの児童から質問の手が挙がった。最後の質問「人生で大切にしていることは？」に対し、牧田社長は、「人との出会いを大切にしている。人の役に立って認められることで幸せになれるが、人との付き合いがないとそれが無い。人への思いやりをもって、多くの人と人脈をつくるのが幸せにつながる。皆も思いやりをもって人と接してほしい」と語り授業を締めくくった。



第15回 黒部市立生地小学校

令和4年12月13日(火)、牧田和樹氏(株牧田組社長)が黒部市立生地小学校にて5、6年生48名を前に「よりよく生きることを」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長は、はじめに、「今起きているものごとには必ず理由・原因があり、人間関係も同じ。人と意見がぶつかった時は、まずは何が原因か互いに話し合っ、合意できる点を見つけていくと人間関係がうまくいく」と語った。

続けて、「人間には皆、心があることを忘れないでほしい。自分のことばかり考えていると相手を傷つけてしまい、誰にも相手にされなくなってしまう。話し合い、共感することで心を分かり合うことができる」と説いた。

次に、「社会に出ると正解のない問題に直面することが増える。「知識」と「人からの情報」の2つを組み合

わせることで正解のない問題を解くことができるが、2つのうち、より大切なのは、人からの情報。知識は一方向に入ってくるだけだが、人からの情報は双方向。人とやり取りすることで、自分が知りたい情報に照準を合わせていくことができる」と説明した。

そして、「正解のない問題を解くために絶対に必要なのは、「情報をくれる人=友達」。友達をたくさんつくってほしい。そのためにも、自分勝手にならず、相手にも心があることを意識して、その人の言動の理由を考えてあげてほしい」と人を思いやることの大切さを改めて強調し、授業を締めくくった。



第16回 富山県立富山高等支援学校

令和4年12月16日(金)、山野昌道氏(株チューリップテレビ取締役社長)が富山県立富山高等支援学校にて全校生徒41名を前に「人生を幸せにする3つのコツ」をテーマに課外授業を行った。

山野社長は、はじめに、「働くこととは、社会をつくる一員になることである。社会は皆でつくるもの。学生の間は社会に育てられているが、卒業したら、働いて、皆で協力して社会をつくっていかなければならない」と働くことの意義を説いた。

続けて、「自分が向いている仕事や自分の夢はなかなか見つけられないが、どうしても見つけたければ、考え続け、行動し続けるしかない」、「努力した人が皆成功しているわけではないが、成功した人は皆努力している」と語り、行動することと努力することの大切さを強調した。

次に、「人生を幸せにする3つのコツ」として、①迷ったらやる：やってみる後悔よりやらなくてする後悔の方が大きいので、迷ったら「やる」方を選ぶべき、②人のせいにはしない：悪いことがあると人のせいにしたくなるが、それでは何も解決しない、③何をやってもうまくいくと考える(ポジティブシンキング)：後ろ向きの考え方はものごとにはうまくいかない、「なんとかなる!」と前向きな考え方を、の3つを紹介した。

最後に、「未来は今日一日の積み重ね。充実した未来のために充実した今日を送ってほしい」とエールを送り、授業を締めくくった。



第17回 富山県立高岡高等学校

令和5年3月3日(金)、福崎秀樹氏(株フクール代表取締役)が富山県立高岡高等学校にて1年生280名を前に「大転換期を生き抜く力を考える」をテーマに課外授業を行った。

福崎代表は、はじめに、「おいしいものを食べること」と「おいしくものを食べること」の違い=自分の心で決めること大切さを説明したうえで、「今の時代はSNSからの情報など外からの多くの刺激に浴びせられているが、外からの刺激に反応し続けたら本当の自分で生きにくくなる、本当の自分を生きなければならない」と説いた。

次に、私たちは今、①VUCAの波、②自動化の波、③人生100年時代の波の3つの大波に襲われており、大転換期にあると述べた。急速な少子高齢化、新型コロナウイルスの流行など、予測できないことが日々起こり、確実なものが何もないことだけが確実なVUCAの時代。そのような中、テクノロジーは指数関数的に進化し、2030年には今ある仕事の49%はコンピュータで自動化さ

れると言われている。また、今までは、いい大学に入りいい会社に就職するのが人生の正解だったが、人生100年時代になると、この考え方は通用せず、正解が誰にもわからない、と説明した。

そして、「3つの大波に襲われていても、未来は決して暗くはない。歴史上にも大転換期は何度もあったが、先人たちは、志、レジリエンス、即興力で乗り越えてきた。大転換期を生きるには、人間だけが持っている能力を高める必要がある、そのためには、人と関わったり、本を読んだり、旅をしたり、挑戦したりして、人間らしく生きる、本当の自分を生きることが大切だ」と述べた。

最後に、「大転換期を生きるのは皆さんだけではなく、私も同じ。共にこの時代を一生懸命生きよう!」と熱く語り講義を締めくくった。



次世代を担う教員へのメッセージ

令和3年6月30日(水)、稲葉伸一氏(株三四五建築研究所代表取締役)、尾城敬郎氏(三菱商事(株)北陸支店長)、尾山謙二郎氏(マンパワーセキュリティ(株)代表取締役)、土屋誠氏(日本海ガス(株)取締役社長)の4氏が、経験年数11年目の教員58名を対象とした中堅教諭等資質向上研修(富山市教育委員会主催)にて「組織のリーダーとは」「若手の育成」をテーマに講演を行った。



稲葉代表取締役

チームを編成し実施していることを紹介し「スタッフのマッチングや社員がその能力を発揮するための環境を整えることがリーダーの役割」とし、その際に「自身は常にフェア(公平)であるよう意識している」と強調した。

次に「リーダーとは」について、自身の経験や経営者として日頃から心掛けていることなどを基に語りかけた。

(1) 顧客、目的を意識する

野球選手の仕事は「野球をすること」ではなく「野球をして勝つこと、勝ってファン(顧客)を喜ばせること」である。リーダーは、顧客は誰なのか、そ

<稲葉 伸一 氏>

稲葉代表ははじめに、建築設計の仕事は「人(顧客)の気持ちを図面という形にすることと考えている」と、各分野の技能を持ったスタッフでチ

れをやる目的は何なのかを忘れてはいけない。

(2) 芸の肥やし

ほんの少しでもよいので、興味があることは積極的にやってみること、好奇心を忘れないことは大切と考えている。こうした体験を通じ自身の中に「引き出し」をたくさん持つことは、自身の助けになるだけでなく友人づくりなどにとっても有効である。

(3) 企業は畑、学校は苗床

社員のやりたいことを開花・結実させる場が企業で、それまでの準備をするところが学校であると思っている。経営者として、社員が活躍できるための物理的・人的な環境を整えることが自身の仕事であると考えている。

最後に、リーダーとして忘れてはいけない事は「何のためにそれを行っているか」として「やっているうちに迷うこともあると思うが“何のために”を思い出すこと、思い出させることが大事。常に“何のため、誰のため”を意識してほしい」と、次世代のリーダーへアドバイスした。



尾城支店長

今求められるリーダー像として①共感できる人、②時代やTPOに合っている人、③Willingly Follower(喜んでついてくる人)を作れる人、④その先を伝えられる人、⑤副キャプテンと連携できる人、であると訴えた。

次に、求められるリーダーになるために必要なことを、3つのキーワードを示しながら語りかけた。

(1) “まさか”にどれだけ対応できるか

日常的なマスク着用などについて多くの人が“まさかそんな時代がくるとは”と感じていると思う。見通しのつきにくい時代のリーダーシップ論としては、いくつかの選択肢を持った“多様なリーダーシップ論”である。

<尾城 敬郎 氏>

尾城支店長はまず、自己紹介として国内外での勤務経歴を紹介。「各国の文化や習慣が違う中で、リーダーに共通すること」という観点から、

(2) 平易な言葉でフィードバック

山本五十六の言葉は平易な表現が用いられているし、Jリーグ監督時代のジーコは通訳時にごく簡単なポルトガル語で話したそうである。これからのリーダーは、なるべく平易な言葉で表現することが必要。平易な表現であれば言った分だけ、生徒から反応が還ってくるのではない。

(3) リーダーシップのローテーション

“まさか”の時代、一人でやるより複数でやったほうがクラスの価値が高まる。意見を引き出す話し方や、それができる人の存在が重要となる。これが機能すると教師の負担が軽減できる。その分を、うまくいっていない子の背中を押してやることこそ、教師としての真のリーダーシップではない。

最後に、トライアスロン(Triathlon)のスペルは「Try!明日論」であり、Impossible(不可能)という単語に「(アポストロフィ)を付加するとI'm possible(できる)になるとして「明日こうなりたいから今これをする、というビジョンや、ネガティブをポジティブに変えるよう発想の転換を意識してほしい」とエールを送り、講演を締めくくった。



尾山代表取締役

<尾山 謙二郎 氏>

尾山代表はまず、自己紹介として会社設立の経緯などを紹介。自身の経験を基に、社会の形が“しがらみからつながりの社会”へ移り変わり、自立や自己責任など

“個”の重要性が増す中で、歴史観を学ぶこと、正誤や利害ではなく善悪で判断する“ものさし”を持つことが必要であると説き、リーダーや若手の育成に必要なことについて語りかけた。

(1) 組織のリーダーとは

①リーダーとは“希望を配る人”だ (ナポレオン)

人はどれだけ苦境にあっても希望があれば前進できる。常に希望を配ることがリーダーの仕事である。止める理由を探さず希望を語り続けられるよう、本や映画など心を揺さぶるものに多く触れ、人を“感化”できるようになってほしい。

②誠実さと感謝する心

感謝の対義語は当たり前、ありがたいの語源は

“有り難い”で対義語は無難である。子供達には“有り難い人生”がより豊かであることを伝えてほしい。

③責任を取る覚悟と自覚

ゲーテは「涙とともにパンを食べた者でなければ人生の味はわからない」と述べた。皆さんは人と向き合っている仕事、どんどん失敗・挫折し、泣いていい。その分だけ、人生の味が美味くなる。

(2) 若手の育成

①信頼感と愛情

子供と向き合う時に必要なのは信頼感と愛情である。愛とは相手を信じて待つこと、情とは自分の感情を優先し行動すること。このバランスを取ることが重要である。

②人の成長に必要な3つの役

人の成長には「間違ったときに叱ってくれる人」「悩んでいるときに話を聞いてくれる人」「頑張っているとき、自身を失っているとき見守ってくれる人」が必要。ぜひこの役割を担ってほしい。

最後に、中国後漢の崔子玉の座右の銘「四殺」の一部“人は、学問・教育を誤ることで天下・国家を滅ぼす”を引用し「みなさんは大きな意義・価値のある大切な仕事を担っている。再度、心に留めて頑張ってください」と熱いエールを送った。



土屋取締役社長

<土屋 誠 氏>

土屋社長ははじめに、自己紹介を兼ねて自社における社員の役割等級制度を紹介。入社10年目の社員には担当業務の問題点・課題を整理し改善を提案・実施する

能力を求めていると語った。

次に、リーダーには自身の意見に対し部下が共感してくれること、自分が中心になって取り組む意識が重要とし、リーダーとして求められる3つの要素について、日々意識していることを交えながら語りかけた。

(1) 指導力：リーダーシップ

指導力とは“どちらかという教え導く、勉強の方法などに関する助言を与え導く”こと。厳しい事業環境下ではチームでの取り組みが必要であり、チームでどう取り組むか、どうまとめるかがリーダーに求められる。メンバーに、何をしなければならぬのか、目的は何か、などを理解・共有してもらおうよう導くことが重要となる。

(2) 人材育成

入社10年目は“あいつ上手に教えているな”など成長の差が出てくる世代である。これまでは個人の努力である程度、形にできるがリーダー・管理職となると、本人ひとりの力だけでは目標達成は難しくなる。優秀だが協調性が乏しい人、コミュニケーション力は高いが今一歩伸び悩む人をさらに伸ばすチャンスを与えること、自分は離れても代わりに担ってくれる人がいること、育てることが求められる。

(3) 責任感

本来は「あの人なら、責任感で私達をまとめてくれる」のように、リーダーは上から与えるのではなく下を持ち上げるのが理想である。責任感がなければリーダーは務まらない。部下が“この人はリーダーとなるべき人”と認めた人が真のリーダーであり、そのような人を任命するよう意識している。

最後に、新入社員を指導するメンター制度や定期的な面談などの取り組みを紹介しながら「これまでの“わからなければ聞いてくるだろう”では難しい時代。如何にコミュニケーションをとるかが若手の成長・人材育成には必要であるとともに、聞き手側の成長にもつながる。積極的に声をかけてほしい」とアドバイスを送り、講演を締めくくった。

「よりよく生きる」とは 牧田副代表幹事が小・中・県立学校 3 年次校長研修会で講演

令和3年7月29日(木)、牧田和樹副代表幹事が小・中・県立学校3年次校長研修会（富山県教育委員会主催）にて、受講者38名を対象に「よりよく生きる」と題して講演を行った。

牧田副代表幹事ははじめに、各界の著名人と親しくなった際のエピソードを紹介。人と仲良くなるためには相手と話せることが必要であるとし「コミュニケーションを成立させる、すなわち価値観を共有させることが重要。ぜひ身につけてほしい」と説いた。続けて、価値観を共有させるためには多くの“引き出し”を持つこととし「引き出しを増やすには情報を自身にinputする必要がある。本やネット、セミナーなどの手法は情報が一方向である。一方、人との会話による“双方向で仕入れる情報”はとても重要」と強調した。

次に「あなたのスマホの、教育関係者以外の方の登録者割合はどれだけか」と問いかけ「教育関係者の割合が高いと偏った情報しか入らない。教育関係者以外の方をどれだけ持てるかが重要」と訴えた。また、引退後の第2の人生について、

教育関係者とのつながりだけでは学校でやってきたことしかできないとし



牧田副代表幹事

「学校では年齢や地位など相手に対する優位性が常にあったが社会ではそれはない。第2の人生を充実させるための価値観の拡大には、“人のストック”のみが効果を発揮する。臆せずいろんな人と話そう」と語りかけた。

最後に、コミュニケーション能力向上は組織トップとしてのマネジメントにも必要であるとし「マネジメントの要点は“方針どおり（≒自分の思うとおり）に人を動かせるか”である。この時、人を“説得”するのではなく“納得”させることが重要。高いコミュニケーション力で、相手を認めた上で行動してもらい得られる成果を大きくすること、これが第2の人生を含めて“よりよく生きる”ことにつながる」とアドバイスを送り、講演を締めくくった。

「ピンチをチャンスに変える」

森藤正浩氏・富山県中学校長会 研究大会で講演



森藤社長

令和3年11月10日(水)、森藤正浩氏(正栄産業(株)取締役社長)が令和3年度富山県中学校長会 研究大会にて県内中学校長77名を対象に「リーダーとしての、アントレプレナーシップ」と題し講演を行った。

森藤社長は、自社の事業や26歳で起業したことなどを紹介すると共に、リーダーシップと人材育成についてエピソードを交えて語った。

(1) 起業

22歳で起業を決意した動機は不純なものだった。アルバイト先の設計事務所社長宅に4年間、住み込みで働いた。休みも給料も無かったが、この時に建築の面白さに触れた。

当初は若さとやる気と覚悟しかなかった。現場作業の傍ら営業も行い仕事は頂いたが、人の確保が難しかった。次第に何のために働くのかを考えるようになり、仕事への考え方も自己の欲求の実現から相手へと変わり始めた。ピンチはチャンス、自分をどう変えられるかが重要である。

(2) 転機

起業5年目の頃、取引先が倒産し資金繰りに苦慮し

た。苦悩の中で「自身に起こることは全て自分で決めたこと。どうせ苦勞するなら納得できる苦勞をしよう」と考えた。一生懸命だけでは社員も会社も守れない。経営者に最も大切な「決めること」の重さを痛感したこの一件があったからこそ、今があると思っている。

(3) 組織づくりの重要さ

組織をつくらなければ良い仕事はできないと思い、著名経営者の著書を多数読んだ。社長の役割はビジョンを示し伝えること、社員の役割はこれを形にすることと記されており、その徹底が重要と感じた。強い企業風土の根幹には徹底力があると考えている。

振り返れば、起業以来「ピンチをチャンスに」と思い続けて行動してきた。

最後に「中学生に伝えてほしいこと」として①自分を信じて未来に挑戦しよう、②限界をつくらず、大きな夢を描く“心の才能”が重要、③アントレプレナー精神を挙げ「人間は生まれながら、自らの人生を切り開く能力を持ち、信じた通りに人生は成る。常に自分を信じて未来に挑戦してほしい」とメッセージを贈り、講演を締めくくった。



遊道社長

「社員のエンゲージメント向上が働き方改革の本質」

遊道義則氏・高岡市小中学校教務主任会研修会で講演

令和3年11月11日(木)、遊道義則氏(株)ユニオンランチ取締役社長)が高岡市小中学校教務主任会研修会にて、教務主任47名を対象に「働き方改革について～私の思うところ～」と題し講演を行った。

遊道社長は、自社の事業や当会働き方改革委員会での活動等を紹介した後、働き方改革に関する自身の考え方を、自社でのエピソードを交え語りかけた。

(1) 働き方改革とは何か

少子高齢化が背景に挙げられるが、少子化と高齢化は異なる問題。生産年齢人口の減少は、労働力の補強という点を鑑みると、高齢化よりも少子化が大きく関係すると捉えている。就業機会の拡大や能力を発揮できる環境づくりも重要だが、最も取り組むべきは企業の生産性・収益性向上である。

(2) 働き方改革は本当に必要なのか

労働者不足や出生率低下、労働生産性の低さなどについても、それが指摘される背景の整理が重要。ニートなど働かない人の増加や便利になり過ぎることは労働者不足を助長し、晩婚化や核家族化は労働と育児の両立を難しくし、引いては出生率を低下させる。正社員とパート・アルバイトは区別であって差別ではないが、働きながら子育てがしやすい環境づくりは企業

も一層努力すべきと考えている。

働き方改革をある程度推進しないと若い人材を採用できない一方、自社の仕事は社会的意義があり、地域社会への貢献という誇りと自覚を持っている。働き方改革とは、経営者自身の経営改革である。

(3) 当社の現状と展望

日本の男性の平均労働時間が年2,281時間に対し当社は約2,700時間であり、努力が必要である。パート従業員の待遇差はなく、正社員へも登用している。多様な働き方実現の取組は要継続と考えており、休暇や福利厚生など制度面は概ね対応した。企業内育児施設はぜひ設置したいと考えている。

(4) 成果(生産性)を上げるには

自身の職業に誇りと自覚があるからこそ、働き甲斐がある職場にしなければならない。生産性向上や成長の仕組みづくりは、経営者と社員との最高のコミュニケーションによる社員のエンゲージメント(会社への愛着・思い入れ)向上こそ、働き方改革の本質であると考えている。

最後に「子供達に日本の未来がかかっており、その子供達は先生にかかっている。自信と誇りを持ち、自分らしさを発揮してほしい」と激励し講演を締めくくった。

教育現場で奮闘する次世代リーダーへのメッセージ

令和3年11月24日(水)、高野二郎氏(タカノ建設(株)取締役社長)、東澤善樹氏(とうざわ印刷工芸(株)取締役社長)、森弘吉氏(株)エムダイヤ代表取締役)、柳川三千代氏(株)モーヴ代表取締役)の4氏が、経験年数11年目の教員54名を対象とした中堅教諭等資質向上研修(富山市教育委員会主催)にて「組織のリーダーとは」「若手の育成」をテーマに講演を行った。



高野社長

<高野 二郎 氏>

高野社長はまず、自己紹介としてIT企業から建設業へ転職した経歴、当会教育問題委員会での活動を通じ、家庭・学校・企業教育の連携や人づくりの重要性を実感したことなどを紹介した。次に、組織のリーダーとしてありたい姿を今も追い求め続けているとし、自身が考える「リーダーとは」について語りかけた。

(1) リーダーとは

リーダーとは「よい結果を導く人」であると考えている。稲盛和夫氏より人生成功の方程式として、人生・仕事の結果 = 考え方 × 熱意 × 能力であると教わった。このうち熱意と能力のレンジは0~100点だが、考え方は-100~100点である。よい結果を導くには、人として正しい考え方を持つことが必要である。

(2) リーダーとしてのありたい姿

①方向性を示す

リーダーには、チーム・組織のビジョン、ミッション、バリューを示し、達成のための計画とプロセスを明らかにしモチベートしていくこと、見直しながらこれを

徹底していくことが求められる。当社では機会を捉えて、ビジョンを社員と共有し動機付けを行っている。

②人格を磨く

この人についていきたい、支えたいと思われる人になることが重要であり、事業を推進する勇氣、英知、熱意が必要。これを養うべく、利他・感謝の心や仲間と苦楽を共にすること、オープンマインド(自由で前向き、素直な心、異質を受け入れる)、変化に対応できる健全な危機意識を持つよう心掛けている。

③人を育てる

野村克也氏は「財を残すは下、仕事を残すは中、人を残すは上」と語った。すべての原動力は人である。社員一人一人の個性・多様性を伸ばす風土づくりを目指し、試行錯誤の中だが日々考え取り組んでいる。自ら考え、良心に従い行動するなど社員の成長が会社の成長につながると考えている。

最後に、自身の仕事観を明文化したことを紹介し「仕事上悩むこともあると思うが、あるべき教師像を明文化し心の柱を創ることで、子供達とどう向き合うかを考えられるのではないかとアドバイスし、講演を締めくくった。



東澤社長

<東澤 善樹 氏>

東澤社長はまず、自己紹介として事業内容や当会環境問題委員会委員長としての活動などを紹介した。次に、リーダーに求められる資質について、ディクテーション(書き取り)を取り入れながら語りかけた。

(1) リーダーとして心掛けていること

①やりたいこと、ビジョンを声に出す:メンバーに理解・協力してもらうため、積極的に表現するよう努めている

②説明を尽くす、リアクションを返す:出された意見一つ一つをよく聞き咀嚼し、リアクションを返すことで自分の理想・ビジョンの中に取り込むと共に、相互理解を得るきっかけとなる

(2) ディクテーション:行動力基本動作10か条

(以下、講演にて強調した点のみ抜粋)

第1条 ぐずぐずと始めるな、時間厳守。行動5分前には、所定の場所で仕事の準備と心の準備を整えて待機せよ

時に、様々な難しい問題も生じる。機が熟すのも大事だが先送りしては何も始まらなく、積極的に考えて取り組むことが大事。5分前にはその場所に着き、話す内容などのシミュレーションは重要である。

第8条 いかなる困難に直面しても目的を放棄せず、時が深更(しんこう)に及ぼうとも最後までやり遂げる不退転の強い意志を持つ

そのくらいの気持ちで取り組むからこそ、成果が得られるのではないかと。不退転の強い意志が上司や部下へ伝わることは重要である。

(2) ディクテーション:指導力10則

(以下、講演にて強調した点のみ抜粋)

2 管理者は先頭に立たねばならぬ。導く者は前にいる、「常に」という言葉と共に、泥にまみれて失態をさらせ失敗があつてこそ学びがあり、より高みにたどり着ける。リーダー自ら先頭に立ち、失敗から共に学ぶことが重要である。

9 管理者は部下を育てねばならぬ。朝に夕にそれを成せ。部下を育てずして、どうして業績を挙げ得ようか自分でやってしまうと、部下の成長の芽を摘み取ってしまう。「やってみ」くらいの気持ちで仕事を与え結果を挙げてもらう。成果が出れば褒め、出なければその原因を一緒に考える姿勢がリーダーには求められる。

最後に「例えば垂直目線から水平目線へなど現代風の解釈も必要だが本質は不変。ディクテーションした項目を時々読み返し、教師としての基本の部分に役立てて欲しい」とエールを送った。



<森 弘吉 氏>

森代表はまず、自己紹介として自社の事業内容を紹介。海外でのエピソードを基に、日本の常識は必ずしも世界ではそうとは限らないとし、自身の常識観を他者と比べて考える視点の重要性を説いた。次に、日頃心掛けている考え方・価値観について、自身の経験を踏まえ語りかけた。

森代表

稲盛和夫氏は(人生の)成功 = 能力 × 熱意 × 考え方であり特に、考え方が重要と説いた。米国の作家スティーブン・R・コヴィは著書「7つの習慣」で、成功とは自分の思い描く人生を歩めることと定義している。人として正しい考え方を持つことが重要である。

(1) なぜ「考え方」が必要か

稲盛和夫氏は(人生の)成功 = 能力 × 熱意 × 考え方であり特に、考え方が重要と説いた。米国の作家スティーブン・R・コヴィは著書「7つの習慣」で、成功とは自分の思い描く人生を歩めることと定義している。人として正しい考え方を持つことが重要である。

(2) 日頃心掛けている考え方・価値観

①信頼関係を築く

信用とは過去の実績に基づき信じること、信頼は未来に向けて根拠なく任せることと捉えている。特に、信頼される人であるよう心掛けている。

②人との出会いやご縁を大切に

多くの出会いやご縁が人生観・価値観形成に寄与している。結果的に人は、人からしか磨かれれないと思う。

③時間の使い方～前出「7つの習慣」より～

緊急ではないが重要な領域(人間づくり、勉強や自己啓発など)をどれだけ増やせるかで人生の成功度が決まる。この領域を充実させることはとても重要である。

④変化への対応

ダーウィンは「進化論」で、この世に生き残るのは変化に対応できる者と説いた。以前は会社に許可を得てテレワークしていたが、今はその逆であり、常識となりつつある。変化への柔軟な対応が重要である。

(3) リーダーとして心掛けている考え方、努力すべきこと

リーダーシップを直訳すると「対人影響力」となる。リーダーシップには良いものと悪いものがあり、相手に良い影響を与えるリーダーシップが求められる。

リーダーとして努力すべきこととは、①情報収集と交流を通じ、理解と納得を繰り返し生涯学び続けること、②繰り返しブレずに表現を変えながら考え方を伝えていくこと、と考えている。

最後に、学校教育や教師に期待することとして①生きる力を身に付けさせてほしい、②小さな成功体験を積み重ね、自信をつけさせてほしいとし「生徒は学校で知識と経験を得ると、智慧が生まれる。智慧を使える人の育成は重要。そのためにも、多くの失敗を経験させそこから学べるよう、失敗に寛容であって欲しい」とアドバイスした。



<柳川 三千代 氏>

柳川代表ははじめに、東京大学野球部が今年、64連敗を脱出し4年ぶりに勝利したことを紹介。実力の高い選手はいないが新監督就任や分析チームの結成、他大学とは違う戦術が背景にあるとし、リーダーの役割や若手育成にも通じると語った。次に、組織のリーダー、若手の育成について、自身の経験や考えていることを交え語りかけた。

柳川代表

柳川代表ははじめに、東京大学野球部が今年、64連敗を脱出し4年ぶりに勝利したことを紹介。実力の高い選手はいないが新監督就任や分析チームの結成、他大学とは違う戦術が背景にあるとし、リーダーの役割や若手育成にも通じると語った。次に、組織のリーダー、若手の育成について、自身の経験や考えていることを交え語りかけた。

(1) 夫の急逝から学んだこと

明日が今日と同じようには存在しない、当たり前と思うことは決して当たり前ではなく有難いこと、人の悲しみが本当の意味でわかるようになったなど、多くの学びを得た。これ以降、辛いことや悲しいことは「人生の修行」と捉え、乗り越えるよう取り組んでいる。

(2) 組織のリーダーとは：リーダーとして特に重要な要素

①判断力：とりわけ、軌道修正を伴う判断力が重要であり、迅速に行えることが必要。判断に迷った時は考え抜いた上で、自分の心に正直な方を選ぶこととしている

②覚悟：最悪の状況を想定の上で覚悟を持ち、これ以降はブレないよう心掛けている

③人間力：リーダーには人の心を動かす人間力が求められる。人を動かすには、人の悲しみを理解する心や感謝の想いを持つことが重要である

(3) 若手の育成：特に重視していること

①プロとしての自覚を持ってもらう：素人とプロとの違い、お金を頂いて仕事をする意味などプロ意識を醸成するよう指導している

②個人の得意なことを伸ばす：社員各々に得意な部分、強みがあり、個人の能力を一律には評価しないこととしている。一人一人の得意・不得意を見極め、尊重・理解(わかっているよ、という想いを伝える)するよう努めている

③心が折れないようフォロー：壁にぶつかった時、心が折れるか乗り越えられるかは、本人の努力も大事だが先輩・上司のフォローも大きく影響する。思いやり、愛情を持って接することが重要である
最後に、学校教育や先生に期待することとして「我が国の科学技術力に衰退が見られる中、学びたい意欲のある子どもには、レベルの高い内容も積極的に教え、個々の能力を伸ばしてあげてほしい」とアドバイスを送り、講演を締めくくった。

ミドルリーダーへのメッセージ

高瀬幸忠氏 中堅教諭等資質向上研修で講演



高瀬社長

令和3年11月24日(水)、高瀬幸忠氏(株)スカイインタック取締役社長)が、経験年数11年目の教員186名を対象とした中堅教諭等資質向上研修(富山県教育委員会主催)にて「ミドルリーダーとしての自覚(役割)」と題し講演を行った。

高瀬社長はまず、日頃から①Just try!(とにかくやってみよう)、②ご縁に感謝、③テーマを持つ(世の中の役に立つ、あきらめないなど)を大切にしていると紹介し、組織の中心的役割を担うミドルリーダーに求められる要素について語りかけた。

1. ミドルリーダーに要求されること

(1) マネジメント

リーダーとして、組織の総力を最大化し最高の成果を挙げることがマネジメントの極意の一つ。声大きい、自身の意見を押し込む意味での強いリーダーは組織を率いる力とはならない。反対意見・フロンティア精神溢れる意見を取り込む度量の大きさも必要である。

(2) 伝える力

上向き(対上司)には取捨選択する力、下向き(対部下)には展開する力を指す。個人にとってではなく組織の損得で取捨選択することが必要である。

(3) データ収集・分析力

事象を客観的・定量的に示すことが求められる。KPI(重要業績評価指標)やKGI(重要目標達成指標)を意識すると共に、特定の者でなければできない業務(ひとり仕事)を無くすことが重要である。

2. SDGsとデジタルトランスフォーメーション(DX)

SDGsは「変革」と「誰ひとり取り残さない」がキーワード。変革とはより良くするため変えていくことに挑戦すること、よい伝統を受け継いでいくことである。また「誰ひとり取り残さない」には「何一つ取り残さない」が含まれると考える。生徒さんだけでなく皆さんもDX社会の中心人物。先のことはわからないと言わず、SDGsに積極的に関わってほしい。

3. リーダーに必要な資質(事例をもとに)

リーダーには①人材育成、②選択、③伝える、④定量性、⑤反対意見(を取り込む)、⑥スピード、⑦現場主義、⑧ネットワークづくり、に関する資質が求められる。これらを意識し、良いリーダーとなって欲しい。

最後に、良縁と感じる感性やそれを広げる発信が重要とし「いろいろなご縁に感謝しつつ、これを生かせるよう日々努力しよう」とエールを送り、講演を締めくくった。

校長は先生方の最も強力なサポーター

高瀬幸忠氏 令和3年度富山県高等学校長協会研究発表大会で講演



令和4年1月18日(火)、高瀬幸忠氏(株)スカイインテック取締役社長)が、令和3年度富山県高等学校長協会研究発表大会(富山県高等学校長協会主催)にて「改革の両輪『働き方改革と学び方改革』」と題し講演を行った。

高瀬社長はまず、資源リサイクルや障がい者雇用など自社でのSDGsに関する取組を紹介し「新しいことに挑戦する人がいいものを受け継ぎ、新しいことを取り入れ、その結果として伝統が進化することが伝統を守るといふこと。このためには挑戦が必要」と訴えた。次に、組織改革の両輪は学び方改革、働き方改革であるとし、日々考えていることについて語りかけた。

1. 大切にしていること

(1) Just try! (とにかくやってみよう!)

何事も、思い切ってやってみること、そこから学ぶことが重要である。また、誰にでもできることであっても続けることに価値があり、やがて大きな成果を生む。とにかく続ける、コツコツと積み重ねることが重要である。

(2) 縁に感謝

江戸時代初期の武将・剣術家である柳生宗矩は“小人は縁があっても縁に気づかず中人は縁があっても縁を生かせず大人は袖すり合う縁も縁とする”と言ひ、これが柳生家の家訓となった。社会人となつてからずっと、良縁と感じる感性の大切さ、その縁をつなげる・拡げていくためには自ら発信することが重要と感じている。

(3) テーマを持つ

①世の中の役に立つ、②あきらめない・逃げない・そして礼節、③何でもいいから世界一になる、など自分の行動に対しテーマを持ちながら取り組んできた。漠然とではなく、テーマを持って行動することは様々な面で重要である。

2. 学び方改革

今、学校で学んでいる生徒さん達はいずれ就職し、我々の企業や団体で働く仲間となる。これは、生徒さん達の成長が企業の成長に直結することを意味する。当会教育問題委員会での活動や日々の事業活動を通じ、学び方改革の必要性を痛感している。

(1) 教え合い

クラスメイトはライバルではない。また、どの大学に進学するか、どの会社に就職するかなどの比較もない。価値観・信念を育むための自律力を養成することが今後さらに求められる。

(2) 期限意識

若手社員に多い言葉として、Aさん「これ、教えてもらってないので、できません」、Bさん「これ、教えてもらってないので、やってません」がある。仕事の3原則+1は品質・予算・納期・環境である。この例では、Bさんは原則(納期)を守れない。予測困難で先行き不透明な時代の中、一人一人が答え

のない問いにどう立ち向かうかが問われている。生徒さん達の“生きる力”を育む必要性はさらに高まっている。

(3) 生き方が変わる→変える

人間は環境によって“変わる”生き物。生徒さん達をみんなで見守り合つて、良い方向に進めることが重要である。一方で、自らの意思で“変える”ことに挑戦することも重要である。そのためには「選択すること」がとても大切、選択の機会をつくり、チャンスを与える必要がある。

3. 働き方改革

企業と同様に、先生方の働き方改革を推進し本来の仕事に時間を費やして頂くことは重要である。様々な視点から検討されてはいるが、先生方に寄り添った改革が求められる。

(1) 断りにくい相手

例えば保護者など、要求に対して断りにくい相手との協議・交渉はNO.2、3の力が大きく影響する。先生方の働き方改革は、校長が如何にサポートするかがカギを握ると考えている。単に号令をかけるだけでは効果は発現しない。校長は先生方の最も強力なサポーターである、さりげなく現場の声を聞き、解決の糸口を提案してほしい。

(2) 本質の理解

人間には“期待に応えたい”という本質がある。仕事では本人が手薄になっていると思う部分の優先順位が上がる傾向があるが、説明やコミュニケーション不足があると、これと期待していることとの間のギャップが大きくなりやすい。ギャップを小さくするためのサポートは大変重要である。

(3) バランス

指示待ちの人を育成するには自ら考えるよう仕向けること、個人プレーには強権発動など、組織実態に応じて上司像を変えることも必要である。組織の総力向上は校長の最も重要な仕事であるとともに、先生方を強力にサポートできる部分でもある。自信をもって遠慮なく、先生方の成長に最大の関心を払ってほしい。

(4) 改革のベース

よくないことが起きた時、すぐに校長へ報告が上がること、素早い報告に感謝することなど学校全体で先生方を支える体制づくりが重要。感謝の延長にある信頼関係がすべての改革のベース。いち早く校長へ伝わるためには何を変えるべきか、校長自らが考える必要がある。

最後に、米国の実業家レイ・クロック氏の言葉“勇気をもって 誰よりも先に 人と違ったことをする”を引用し「皆さんは、世の中が大きく変わろうとしている時期に社会へ出る生徒さんを育成している。様々な場面で価値観が大きく、急激に変わってきている、単に流されるのではなく自ら意識を変えることが重要である」とエールを送り、講演を締めくくった。

「企業が学校教育に求めるもの」 伊東潤一郎氏・キャリア教育推進委員会にて講演



令和4年5月18日(水)、伊東潤一郎氏（アイテ
ィオ(株)取締役社長）が富山県キャリア教育推進委
員会にて県立高校教諭約40名を対象に「インター
ンシップ受入れ企業が学校教育に求めるもの」と
題して講演を行った。

伊東社長は、企業の存在意義は付加価値を付
けることであり、企業が存在するためには、「CS：
顧客満足」が必要だとしたうえで、学校教育を企
業活動になぞらえて、学校現場にとってのCSと
は何かを、受講者に問いかけながら説いた。

企業にとっての「お客さん」は社会だが、学校
にとっての顧客・商品は何かという伊東社長の問
いに対し、受講者からは、生徒や保護者が顧客で、
商品は教育・授業だという声が上がった。伊東社
長は、その考えも誤りではないとしつつも、顧客
は「社会」で、商品は「子どもたち」だとし、学
校が社会に提供するものとは、社会に適応した子
どもたちを提供することであり、学校にとって保
護者は顧客ではなく、子どもたちという商品を育

てる上での協力企
業であると述べた。

続いて、インターンシップ受入れ企業として
の立場から問題点を挙げた。働くことは、楽しく
ないことが8割で、何かをやり遂げたときに2割
の大きな達成感、喜びがあるのだと教えなくては
ならないが、一週間のインターンシップでは働くこ
との楽しさしか教えられない。この背景には、教
員が生徒の受入れ先企業を探すことに追われてお
り、インターンシップの趣旨や目的を企業の側に
十分に伝えられていないことがあるとし、教員が
受入れ先探しではなく、インターンシップの目的達
成に注力できるような環境を経済界がつくってい
かなければならないと語った。

最後に、「経済界には学校教育に協力しなけれ
ばならないと考える人がたくさんいるので、企業
に対して、『なぜインターンシップをするのか』、
『子どもたちをどう成長させたいのか』を遠慮な
く伝えてほしい」と強調し、講演を締めくくった。

次世代を担う教員へのメッセージ

富山市中堅教諭等資質向上研修で講演



<長 高英 氏>

長常務は、はじめに、自身が社内で歩んできたキャリアを紹介しながら、会社の中では、さまざまな階層の職位とその職位に求められる能力水準が定められており、評価を受けて職位が上がっていく。入社間もない頃は、自身の担当業務を遂行することが求められているが、上位層になると、部下への指導助言や組織間の連携、会社全体を考える幅広い視野と視点など、求められる能力が変わってくると説明した。

次に、リーダーには様々なタイプがあるとし、「法の支配」によるリーダー：秦王政、人間的な魅力により「人の力を使う術」を身に付けたリーダー：高祖・劉邦、文章と演説によって人々の心を動かす「言葉の力」を備えたリーダー：ジョン・F・ケネディ、そしてこれらすべてを兼ね備えたリーダーとしてカエサルを紹介した。

さらに、長常務が望ましいと思うリーダーは、メンバーよりも能力が秀でているがメンバーのやる気を引き出せないリーダーではなく、メンバーと能力

は同等であってもメンバーのやる気を引き出すことができるリーダー、つまり、集団としての力を引き出す能力を有するリーダー、メンバーを育てることができるリーダーだとした。

そして、そのようなリーダーに共通することは、メンバーに関心を持って表情や仕事ぶりなど観察し、小さな変化に気付くことができ、メンバーが失敗しても見切りを付けずに育てることだと述べたうえで、「このような素養は、教育者に共通する。よき教育者は良きリーダーである。よき教育者を目指していけば、よきリーダーになれる」と説いた。

最後に、「偉人に近づくために努力をすることは大切だが、自らのスタイルに合ったやり方でないと長続きしない。自分が望む方向に、自分に合ったやり方で、自らが成長することがリーダーになる近道」、「教える側、指導する側にばかりいると、わからない人の気持ちを忘れてしまうので、常に新しいこと、わからないこと、苦手なことに挑み、謙虚な姿勢で人に接してほしい」とアドバイスし、「教育者にはリーダーシップの素養があるので、自分たちのスタイルで、自信をもってやってほしい」と激励して講演を終えた。



<寺島 雅峰 氏>

寺島代表は、長年にわたりPTA役員を務めた経験を紹介し、PTAの立場から中堅教諭に求めるものについて語った。

はじめに、新学習指導要領に基づく新しい教育が始まったことを取り上げ、「教育内容が大きく変わり、現場にいる教員は対応が大変だろうが、新しい教育、特にICT教育は、年齢層が高い教員には対応が難しい。みなさん中堅教員が中心となってもうまく活用してほしい」と激励した。

次に、憲法や教育基本法の条文を紹介しながら、「学校のみが日々の様々な課題に対応する責任を有しているかのような認識が生まれやすいが、学校、家庭、地域がそれぞれ役割を持っている。そもそも、子どもの教育に第一義的な責任を負うのは親である」と説明したうえで、PTAについて、「学校に子育てを任せ過ぎないように、当事者意識を強く持つよう活動する『学校教育の大きな支援者』がPTA」と述べた。

そして、教員の多忙化についても触れ、教員の多忙化による犠牲者は子どもたちなので、PTAは多忙化解消に向け、県や市に要望を行っていることを説明し、「現場の教員の生の声を、PTAに伝えてほしい。PTAから県や市に要望して改善に繋げていきたい」と語った。

さらに、中堅教諭に期待していることとして、①社会とのつながりの経験を広げてほしい。学校現場は先生ばかりだが、他のいろいろなところに顔を出すことで、新たな学びや気づきが得られる。②PTAは協力者なので、積極的にかかわってほしい。後に教頭や校長など、学校運営に携わるようになった時に、PTAとの人脈が役に立つ。③保護者は真正面から話をする分かってくれる人ばかり。先生と保護者という関係ではなく、人と人の関係を構築する術を見出してほしい、と述べた。

最後に、「教師という職に誇りを持ってほしい。舵取りが難しい将来の日本を背負っていく子どもをみなさんが教えている。そういう意味ではみなさんが将来の日本をつくっている。いろいろな活動に参加、挑戦して、いろいろな視点、経験を持って人間力を養い、子どもたちのために頑張してほしい」と熱く語り、講演を締めくくった。

令和4年6月30日(木)、長高英氏(北陸電力(株)常務執行役員)、寺島雅峰氏(株)寺島コンサルタント代表取締役)、丹羽誠氏(有)ライフプラン研究所代表取締役)、牧真奈美氏(株)クルサー代表取締役)の4氏が、経験年数11年目の教員81名を対象とした中堅教諭等資質向上研修(富山市教育委員会主催)にて「組織のリーダーとは」「若手の育成」をテーマに講演を行った。



<丹羽 誠 氏>

丹羽代表は、はじめに、リーダーシップの型は時代とともに変化していると述べ、6つのリーダーシップの型を紹介した。①リーダー

シップ1.0(～1920年代):本田宗一郎氏などカリスマ性を持った中央集権的なリーダー。②1.1(～1960年代):事業組織ごとに権力を分権。③1.5(～1990年代):バブル崩壊前の日本型経営の組織のトップ。会社が終身雇用で社員の面倒を見るから、その代わりに指示に従え、という家父長的なリーダー。④2.0(～2000年代前半):バブル崩壊後に現れた、今までのやり方を変えていく変革者としてのリーダー。⑤3.0(2000年代～):現代の理想的なリーダー像で、支援して一人一人の力を引き出す、支援者としてのリーダー。⑥4.0(現在):多様性を認める世の中で、個性を持った各メンバーが役職者の干渉なしにそれぞれのゴールを目指して自己表現することを助けるのがリーダー。

続けて、これらのリーダーシップの型には優劣

はないが、それぞれの型を知っておくことで、上司や部下の言う「リーダーシップ」がどの型かを考え、相手に合わせて対処することができ、また、組織ができた頃の、カリスマ性を持ったリーダーが求められるなど、組織の成熟具合によって求められるリーダー像が異なってくるが、それに適応することができる」と語った。

次に、リーダーシップとマネジメントの違いについて、リーダーシップは「革新する」こと、マネジメントは「維持する」ことであると説明し、その後のグループワークを通して、組織にはリーダーシップ型の人間とマネジメント型の人間がいることを受講者に気付かせた。

そして、「リーダーシップとマネジメントは両方必要であり、使い分けが重要。リーダーシップ型だけ、マネジメント型だけの組織はうまく行かない。部下がリーダーシップ型ばかりであれば、リーダーはマネジメント型を演じるべき。そうすると、組織はバランスをとることができる。リーダーは、他のメンバーを見て、自分がリーダーシップ型とマネジメント型のどちらを演じるべきか、立ち位置を考えてほしい。そうやって組織をうまく運営してほしい」とアドバイスをし、講演を締めくくった。



<牧 真奈美 氏>

牧代表は、はじめに、自身が設立した介護サービス事業所、(有)ケアサポート・まきの事業内容を紹介し、介護の現場では、看護師、介護職や他の様々な職種がチームで働くので、良好な人間関係が大切と説明した。

続いて、ケアサポート・まきを経営する中で起こった人間関係の失敗談を紹介した。デイサービスをオープンして数年経ち、仕事が軌道に乗って忙しくなった頃、スタッフが次々と辞めていった。辞める際、「牧さんについていけない。私は牧さんのように優秀ではない」と言われた。当時の牧代表は、誰よりも一所懸命努力をして頑張ったのに、とショックを受けたが、自身を省み、仕事に対する価値観は人それぞれ違うのに、スタッフに対しても自分のように仕事に全力投球するのが当たり前というプレッシャーを与えていたことに気付いた。

そして、この失敗から「人は自分と同じ考え、同じ価値観ではない」、「『わかってもらえるだろう』は

ない。ちゃんと相手に伝わる言葉で伝える」「人は変えられない。変わるのは自分」ということを学んだと述べた。

最後に、牧代表が部下との関わる中で心掛けていることとして、①一方向ではない、双方向の信頼関係を作ること。感情のままに相手におつからず、自分の感情をコントロールし、本当に伝えたいことを言葉にして相手に伝える。相手の言動に対し、相手の言葉で理由を聞く。褒める時、注意する時は、相手に合った言葉を選ぶ。②最終決断は自分。責任も自分が持つという覚悟。信頼して任せたからには、失敗しても責めない。③箱ではなく、風呂敷のような器になり一つにまとめる。四角い箱には小さな四角い箱しか綺麗に並ばないが、大きな風呂敷であれば、丸い形やいびつな形のものも自由な形にまとまる。それぞれの個性を壊すことなく大切にして可能性を潰さない、の3つを紹介した。

講演後の質疑応答の時間では、「介護の現場と、子どもたちと関わる教員の仕事は大きく重なるところがある、どんどん質問してほしい」と述べた牧代表に、教育現場での課題や悩みについて、受講者たちから多くの相談が寄せられた。

経営者から学ぶ危機管理

高瀬幸忠氏が小・中・県立学校 3 年次校長研修会で講演



令和 4 年 7 月 28 日 (木)、高瀬幸忠氏 (㈱スカイインテック取締役社長) が小・中・県立学校 3 年次校長研修会 (富山県教育委員会主催) にて、受講者 33 名を対象に「経営者の危機管理」と題して講演を行った。

高瀬社長は、冒頭、徒然草の 109 段「高名の木登り」を引き、「目まいがするぐらい危ない枝に立っていれば、怖くて自分で気をつける。だから何も言うことはない。事故は安全な場所で気が緩んだときにこそ起こる。精通者は気の緩みを指摘する」と説明したうえで、自身の会社でも事故の大半はこのケースであり徒然草の時代と変わらないと述べた。

次に、経営者として危機管理に関し日頃から取り組んでいること、心掛けていることを紹介した。

1 つ目は、エスカレーション。よくない報告ほど速やかに伝わる仕組みを構築することが経営上最も大切であると説いた。その理由として、早く相談が上がってくること、トップがアドバイスしたり、応援を差し向けたりして、部門や担当者任せではなく、全社で対応することができるようになる」と説明した。

2 つ目は、ひとり仕事をなくすこと。ひとり仕

事の現場では、病欠者が出ると納期遅れにつながってしまう。ひとり仕事を失くそうとすると、「この人しかできない、人手が足りない、効率が悪くなる」と現場は反発するが、ひとり仕事をしている社員は思うように休暇もとれない。ひとり仕事をなくすにはコストはかかるが、なくすよう取り組んだ結果、誰かがカバーできるようになるという本来の目的に加えて、各人にとっても職域が広がるという副次効果が生じた」と述べた。

3 つ目は、人材育成。グループ内で起きたインシデントをすぐに社員研修のケーススタディの材料として社員間で共有し、社員教育を行っている」と紹介した。

最後に、「危機が起きた際に、被害を最小限にとどめることは狭義の危機管理。大切なのは、平素からリスク管理を行い、それによってリスクを最小化することである。リスクを最小化する策としては、時間が掛かるが、最も効果を発揮するのが人材育成である。人材は放ったらかしにすると在るだけの人『人在』になってしまうのでぜひとも気を付けていただきたい」と強調し、講演を締めくくった。

次世代を担う教員へのメッセージ

令和4年8月1日(月)、高松重信氏(みずほ証券(株)富山支店長)、田村元宏氏(株)タムラ設計 代表取締役)、廣田大輔氏(十全化学(株)取締役社長)、山本克也氏(株)インテック執行役員 北陸産業事業本部長)の4氏が、経験年数11年目の教員81名を対象とした中堅教諭等資質向上研修(富山市教育委員会主催)にて「組織のリーダーとは」「若手の育成」をテーマに講演を行った。



<高松 重信 氏>

高松支店長は、はじめに、人材育成について考える前に、時代背景の変化を認識する必要があると述べた。

1989年の世界時価総額ランキングでは上位

20社中14社が日本企業だったが、現在のランキングには日本企業が上位にいないことを紹介したうえで、「30年前は上場企業に入社すると、すなわち世界のトップ企業に入ったという意識があったが、今では見る影もない。年功序列による画一的、直線的なキャリアの時代は終わり、人によって歩む道が複線化、多様化する時代となった。時代の変化が速くなり、仕事を取り巻く環境変化に伴い、必要なスキルも大幅に変化しており、絶えず、『学びなおし(リスキリング)』が必要になっている」と語った。

続いて、みずほ証券の様々な人材育成の取組みを紹介した。資格試験にかかる教材費や受験料等の費用を会社が支援する制度、幅広い職務の中から自

ら希望する職務に挑戦できるジョブ公募制度など、様々な人材育成のフレームがあるが、会社からの押し付けは一切なく、全て社員の自主性に委ねられていると説明した。

次に、高松支店長が人材育成で大切にしていることとして、①大義、②地元紙、③読書の3つを挙げた。「仕事というものは正しくあるべきだと思う。仕事に大義を持つことで、ビジョンを持って仕事に臨むことができ、また、若手社員の離職防止にも繋がるため、部下一人一人と面談し、仕事の大義を明確にしている」、「仕事で実績を出すうえで、聞く力・雑談力が大切。雑談をする中でお客様から悩みを打ち明けられ、それが実績につながることもある。雑談力を養うためには情報収集が必要で、そのためには地元紙をしっかりと読むことが役に立つ」、「いろいろな経験をするのは大切だが、時間の制約がありできることは限られる。しかし、読書をすることで、時間を使わずに様々な疑似体験をすることができる。疑似体験は雑談力にもつながるし、リスキリングもできる」と語った。

最後に、「民間企業の人材育成の実態が皆様のお役に立てば幸い」と述べ講演を締めくくった。



<田村 元宏 氏>

田村代表は、はじめに、「リーダーシップは、目的地を示して連れていく人の能力であり、組織は目的地に向かう船である」と説いた。

そして、リーダーに求め

られる資質として「認識力」「洞察力」「責任感(覚悟)」を挙げたうえで、溢れる情報の中から正しい情報を正しく受け取り、正しく本質を理解する。物事をしっかり観察し、本質を見抜く。観察力と広い視野を持ち、常識や思い込みには捉われないゼロベース思考をすることで、問題解決能力が高まる。仲間を信じて使い、責任は自分のものとして最後までやり切る。結果を出す覚悟が考え抜く力と諦めない力を生む、と語った。

続いて、リーダーに求められる能力は、①器量：不平不満や不安から行動せず、感情と思いやりから行動する。②思考：物事のタイミング、準備状況、チームの団結力等を考慮し、どうあれば良いのかを導き出す。③目的設定能力：理想、目的、行動指針

を設定する。④実行力・完遂能力：目標に向けて実行し完遂していく力。自分自身の現状を知ったうえで、どう進んでいくかの優先順位を考える。⑤管理能力：目標に対してぶれない、自分の意志を組織のルールとして定めて暗黙知にしていく、の5つであると述べた。

次に、組織に必要な3つの要素として、「目的」「役割と連携」「蓄積と成長」を挙げた。そして、「目的を共有することは組織にとって最も重要で、これがないと組織は成り立たない。組織内で役割を持った個々人が同じ目的を共有することで相乗効果が生まれ、強い組織になる。組織は、今までに蓄積した経験をベースに、今の時代に対応するために成長する。強い組織は有事に備えて常に備えを怠らない。組織は成長することでしか成り立たない。組織は生き物であり、組織の停滞は衰退と同じ」と説明した。

最後に、「リーダーシップも組織も全ては人間が関わっている。人間は意志と感情がある生き物。組織をつくるうえでは、仲間を大切に、目的地に向かう自らの意志に周りの感情をどう沿わせていくかが大切」と強調し、講演を締めくくった。



<廣田 大輔 氏>

廣田社長は、はじめに、現在までの経歴と途中に訪れた2つの大きな転機を紹介した。1つ目の転機はビジネススクールでのチャレンジ。廣田社長は大学

卒業後県外メーカーに就職したが、経営者を志すようになり、学び直しのためにビジネススクールへの進学を決意した。入学後の説明会での「この期間を人生におけるROI（Return on Investment）がプラスになるよう頑張ってください」の言葉を受け、リターンを得るためには厳しい環境に身を置く必要があると考え、一番厳しい教官に師事することにした。厳しいが尊敬できる教官の下にはいい仲間が集まり、仲間たちと議論格闘することで、自身も大きく成長できた。今でも恩師や仲間たちと交流があり、自身の財産になっていると語った。

2つ目の転機が楽天(株)でのチャレンジ。廣田社長はビジネススクール卒業後楽天に入社し、10年間働いた。楽天で学んだ考え方のうち、今も大切にしているものをいくつか紹介した。「Get things done(や

り切ること)」と「0.1%の改善」。楽天では、達成率99%は未達扱いとなる。100%に向けて愚直に考え抜いてやり続け、諦めずに目標を達成することで、自信が生まれ、成長を実感する。成長を感じると新たな目標にチャレンジでき、そこで目標を達成して、また成長してのサイクルを繰り返す。0.1%の改善は小さく目に見えないが、365日積み重ねると44.4%という大きな改善になる。同様に、目の前の小さな目標を着実に達成していくことで、小さな積み重ねではあるが、大きな自信につながると述べた。

次に、会社を経営する中で心掛けていることとして、働くことの動機（楽しみ・意義・可能性・感情的圧力・経済的圧力・惰性）を6つ紹介したうえで、「前の3つ、直接的な動機はパフォーマンスのレベルを引き上げるが、後の3つ、間接的な動機はパフォーマンスを損ねる。直接的な動機をどう高めるかに力を入れている」と語った。

最後に、先生方に期待したいこととして、「子どもたちの可能性を信じ、成功を積み上げて自信を付けさせてほしい」「指示ではなく質問をすることで考える力を身につけさせてほしい」と熱く語って講演を締めくくった。



<山本 克也 氏>

山本執行役員は、まず、自己紹介として、自身の職務経歴を語った。技術職として入社した頃はコンピュータの機械や言語がどんど

ん新しく出てくる時代で、誰も使っていない機械・言語による開発に携わらなければならなかったこと、営業職への転換と東京へ転勤により、いろんな仕事・人との出会いがあり、様々な機会に恵まれたこと、大きなプロジェクトのマネジャーを任せられ、チームビルディングの難しさを実感したことなどなど、様々な経験を紹介した。

そして、これらの経験を踏まえて感じることで、「『いきなり』『初めて』なんて当たり前。全部自分でやろうとすると限界があるので、Know Who、誰に聞けばわかるのか、人脈を広げていくことが非常に大事。そして人に聞くためには、自らも何かを発信できなければならないので、強みを持つ必要がある。」「チャンスは誰にでも平等にあるが、チャンスを活かせるのはその備えをした者だけ」

「無駄な経験は1つもない。自分の気持ちの持ち方次第で、いろいろなものを吸収できる」と語った。

次に、自身がリーダーとして心がけていることを3つ紹介した。1つ目は、「Leadership = 『指導力』ではなく『始動力』」。リーダーシップは、人の先頭に立って率先して動き出すこと。メンバーはリーダーの姿勢をしっかりと見ているので、動き始める力はリーダーシップとして大事な力である。

2つ目は、「関心をもって『観る』」こと。物理的に「見る」と、能動的・主体的に「観る」のは違う。観ることで気づきがあり、その気づきから次の行動計画、活動が生じる。

3つ目は、「『小さな成功体験』での人材育成」。失敗してもいいような環境をつくり、手を伸ばせば届くようなストレッチ目標を設定し、スモールスタートで反復的に何回も何回もやってみる。こうやって生まれた小さな成功体験を通じて、自信とやる気を引き出す。

最後に、「デジタル社会が急速に進むが、使うのは人なので、鍵になるのは人。人が重要。人を育てている教師の職に誇りをもってほしい」とエールを送り、講演を締めくくった。

私の仕事は自分の仕事をなくすこと～期待以上の話を聞かせてもらう喜び～ 高林幸裕氏が富山県教育委員会 県立学校校長研修会で講演



令和4年8月23日(火)、高林幸裕氏（北電産業(株)取締役社長）が県立学校校長研修会（富山県教育委員会主催）にて、受講者61名を対象に「私の仕事は自分の仕事をなくすこと～期待以上の話を聞かせてもらう喜び～」と題して講演し、北電産業の社長に就任してからの2年間で取り組んできた改革について語った。

高林社長は、北陸電力での39年の勤務を経て、2年前から北電産業社長となった。電気事業法による規制がある電力会社と違い、北電産業は不動産、人材派遣、介護福祉、原子力など、定款上何でも取り組める会社。折しも、コロナ禍の社長就任。社会が大きく変化する中、知恵を絞れば大きなチャンスになるが、このチャンスを活かさない会社は取り残される、何をやってもいいのだから、新規事業に取り組み事業拡大を図る必要があると考えた。

同時に、定年まであと数年となり、「自分の仕事をなくすこと」の必要性を痛感していた。元ラグビー日本代表HCのエディ・ジョーンズ氏が、「各ポジションのリーダーが自ら判断する必要がある。自ら判断し牽引しないと成長ができない。選手自らが考え行動することが大切である。私の仕事は自分の仕事をなくすこと。それができれば選手たちで問題を解決することができるから。」

と語ったように、社員一人一人が、状況を見極め、機動的に対応策を検討していけるようになってほしいと考えた。

そのような思いから始めたのが、メルマガを用いた全社員とのやり取りによる改革。社長就任後すぐに、全社員に「やれたらいいな。でも〇〇だから無理かな？」と諦めていることとその解決策を問うたところ、数多くの社員から、様々な意見、赤裸々な思いが寄せられた。

それらを集約したものを全社員に示したうえで、「会社を変えてやろう」と思う社員を募り、集まった有志メンバーを中心に全社員を巻き込みながら、会社のありたい姿とそれを実現するための課題について議論を重ね、最終的に「『めざす会社像』実現に向けたアクションプラン」として取りまとめた。今はそのアクションプランをもとに、四半期毎に進捗確認をしながら実現に向け取り組んでいる。

そうやって改革に取り組んできたところ、社員自らが続々と新規事業を企画・提案し、チャレンジするようになった。期待した以上の話、嬉しいニュースを聞かせてもらう喜びを日々感じていると述べ、講演を締めくくった。

ミドルリーダーへのメッセージ 大橋聡司氏 中堅教諭等資質向上研修で講演



令和4年11月22日(火)、大橋聡司氏（大高建設(株)取締役社長）が、経験年数11年目の教職員169名を対象とした中堅教諭等資質向上研修（富山県教育委員会主催）にて「ミドルリーダーとしての自覚（役割）」と題し講演を行った。

大橋社長ははじめに、学校の多忙化で教員のなり手が不足し、それが日本の教育、ひいては社会全体の衰退につながりかねないと、学校多忙化に対する強い危機感を示した。

そして、日本の一人当たりGDPの世界順位が年々下がっており、その原因が日本の生産性の低さにあると説明したうえで、「日本は生産性の低さを長時間労働で補うことで世界第三位の経済大国に留まっているが、教員が長時間労働すると、子どもたちが長時間労働を当たり前と思うようになり、その子たちが社会に出ても生産性が向上しない。教員が自身の長時間労働にまず疑問を持ってほしい。それが子どもたちの明るい将来につながる」と強調した。

次に、受講者に「学校の顧客は誰？」と問いかけた。「子ども」という声が多く挙がったが、大橋社長はそれも正解としつつ、学校の顧客は「社会」であり、社会で役立つ子どもを育てる使命が教員にあると語った。そして、欧米では働くことを前提とした様々な教育を行っており、日本でも子どもが将来社会に出たときにどうなっていてほしいかを意識した教育を行うべきだと説いた。

最後に、将来の予測が困難な時代において、学校が子どもたちに身に付けさせるべき能力として、「生徒に社会に貢献し、雇用される能力、そして『道徳』を身に付けさせることが求められる」とするピーター・ドラッカーの言葉を紹介し、「日本人には世界に誇る高い道徳心が備わっている。それを活かしつつ、教員が社会を顧客だと意識し、社会に貢献する子どもたちを育てることが、子どもたちの将来にもつながる」と熱く語り講演を締めくくった。

年 月 日

富山経済同友会 御中

(学校名)

(校長名)

課外授業講師の派遣依頼書

下記のとおり貴会から課外授業講師の派遣を依頼します。

区 分	希 望 内 容	備 考
講 師 名	[会社名] [役職・氏名]	
日 時	[時 期] 年 月 日 () [時間帯] : ~ :	第2希望 月 日 ()
対 象	[学年] [学級] [児童・生徒数] [会場]	
実施内容	[形式] 授業 / 講演 / その他 [テーマ・演題] [ねらい]	
連 絡 先	[所在地] 〒 [TEL] [FAX] [E-mail] [担当者職氏名]	
そ の 他 参 考 事 項		

(注) 参考となる資料があれば、適宜添付してください。

富山経済同友会

〒930-0856 富山市牛島新町5-5 インテックビル4階

tel. (076) 444-0660 / fax. (076) 444-0661

ホームページ <https://www.doyukai.org>